

2026年度 大学院社会学研究科 講義概要(シラバス)



法政大学

科目一覧

【発行日：2026/5/1】 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目

〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目

〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs

〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ

〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル

〈グ〉：グローバル・オープン科目

〈実〉：実務経験のある教員による授業科目

〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン

〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

【X6000】 基礎演習 1 [鈴木 智道] 春学期授業/Spring	1
【X6001】 基礎演習 2 [恵羅 さとみ] 秋学期授業/Fall	2
【X6002】 基礎演習 3 [藤田 真文] 春学期授業/Spring	3
【X6003】 社会学基礎演習 3 [藤田 真文] 春学期授業/Spring	4
【X6004】 メディア社会学基礎演習 3 [藤田 真文] 春学期授業/Spring	5
【X6005】 統計分析法 [胡中 孟徳] 春学期授業/Spring	6
【X6006】 調査研究法 [三井 さよ] 春学期授業/Spring	7
【X6007】 質的資料分析法 [樋口 明彦] 秋学期授業/Fall	8
【X6008】 メディア研究実習 1 [山口 仁] 春学期授業/Spring	9
【X6009】 メディア研究実習 2 [水野 剛也] 春学期授業/Spring	10
【X6010】 理論社会学 3 (生活史の社会学) [鈴木 智之] 春学期授業/Spring	11
【X6011】 理論社会学 4 (ベーシックインカム研究) [岡野内 正] 春学期授業/Spring	12
【X6012】 理論社会学 5 (社会学理論の基礎) [佐藤 成基] 春学期授業/Spring	13
【X6014】 メディア理論 3 (ジャーナリズム研究) [別府 三奈子] 秋学期授業/Fall	14
【X6015】 メディア理論 4 (知と権力の社会学) [佐幸 信介] 秋学期授業/Fall	15
【X6016】 理論社会学基礎 1 [徳安 彰] 春学期授業/Spring	16
【X6017】 理論社会学基礎 2 [徳安 彰] 秋学期授業/Fall	17
【X6018】 社会学特殊研究 3 (成人教育運動の国際的展開) [荒井 容子] 秋学期授業/Fall	18
【X6019】 社会学特殊研究 4 (都市と地域の社会問題) [茅野 恒秀] 秋学期授業/Fall	19
【X6020】 社会学特殊研究 5 [小杉 亮子] 春学期集中/Intensive(Spring)	20
【X6021】 社会学特殊研究 6 [丸山 友美] 春学期集中/Intensive(Spring)	22
【X6022】 メディア特殊研究 3 (ブランド広告の意味研究) [青木 貞茂] 春学期授業/Spring	23
【X6023】 メディア特殊研究 4 (知的財産権法) [白田 秀彰] 秋学期授業/Fall	24
【X6024】 学際研究 3 (新しいメディアの哲学) [李 舜志] 春学期授業/Spring	25
【X6025】 学際研究 4 (投票行動と政治コミュニケーション) [大森 翔子] 春学期授業/Spring	26
【X6026】 学際研究 5 (子ども・若者政策の国際比較) [平塚 眞樹] 春学期授業/Spring	28
【X6027】 社会科学研究法 1 [大崎 雄二] 春学期授業/Spring	29
【X6032】 外国書講読 1 (英語) [鈴木 宗徳] 春学期授業/Spring	30
【X6033】 外国書講読 2 (英語) [馬場 智一] 秋学期授業/Fall	31
【X6036】 外国書講読 1 (仏語) [黒川 彩子] 春学期授業/Spring	32
【X6037】 外国書講読 2 (仏語) [黒川 彩子] 秋学期授業/Fall	33
【X6038】 外国書講読 1 (独語) [濱中 春] 春学期授業/Spring	34
【X6039】 外国書講読 2 (独語) [濱中 春] 秋学期授業/Fall	35
【X6040】 外国書講読 1 (中国語) [大崎 雄二] 春学期授業/Spring	36
【X6041】 外国書講読 2 (中国語) [大崎 雄二] 秋学期授業/Fall	37
【X6042】 社会学原典講読 [馬場 智一] 春学期授業/Spring	38
【X6052】 修士論文指導 I A [社会学専攻教員] 春学期授業/Spring	39
【X6053】 修士論文指導 I A [社会学専攻教員] 春学期授業/Spring	40
【X6054】 修士論文指導 I A [社会学専攻教員] 春学期授業/Spring	41
【X6062】 修士論文指導 I B [社会学専攻教員] 秋学期授業/Fall	42
【X6063】 修士論文指導 I B [社会学専攻教員] 秋学期授業/Fall	43
【X6064】 修士論文指導 I B [社会学専攻教員] 秋学期授業/Fall	44
【X6072】 修士論文指導 II A [社会学専攻教員] 春学期授業/Spring	45
【X6073】 修士論文指導 II A [社会学専攻教員] 春学期授業/Spring	46

【X6074】	修士論文指導ⅡA	〔社会学専攻教員〕	春学期授業/Spring	47
【X6075】	修士論文指導ⅡA	〔社会学専攻教員〕	春学期授業/Spring	48
【X6076】	修士論文指導ⅡA	〔社会学専攻教員〕	春学期授業/Spring	49
【X6082】	修士論文指導ⅡB	〔社会学専攻教員〕	秋学期授業/Fall	50
【X6083】	修士論文指導ⅡB	〔社会学専攻教員〕	秋学期授業/Fall	51
【X6084】	修士論文指導ⅡB	〔社会学専攻教員〕	秋学期授業/Fall	52
【X6085】	修士論文指導ⅡB	〔社会学専攻教員〕	秋学期授業/Fall	53
【X6086】	修士論文指導ⅡB	〔社会学専攻教員〕	秋学期授業/Fall	54
【X6301】	博士論文指導ⅠA	〔社会学専攻教員〕	春学期授業/Spring	55
【X6302】	博士論文指導ⅠA	〔社会学専攻教員〕	春学期授業/Spring	56
【X6306】	博士論文指導ⅠB	〔社会学専攻教員〕	秋学期授業/Fall	57
【X6307】	博士論文指導ⅠB	〔社会学専攻教員〕	秋学期授業/Fall	58
【X6321】	博士論文指導ⅢA	〔社会学専攻教員〕	春学期授業/Spring	59
【X6322】	博士論文指導ⅢA	〔社会学専攻教員〕	春学期授業/Spring	60
【X6323】	博士論文指導ⅢA	〔社会学専攻教員〕	春学期授業/Spring	61
【X6331】	博士論文指導ⅢB	〔社会学専攻教員〕	秋学期授業/Fall	62
【X6332】	博士論文指導ⅢB	〔社会学専攻教員〕	秋学期授業/Fall	63
【X6333】	博士論文指導ⅢB	〔社会学専攻教員〕	秋学期授業/Fall	64
【X6340】	社会学総合演習A	〔社会学専攻教員〕	春学期授業/Spring	65
【X6341】	社会学総合演習B	〔社会学専攻教員〕	秋学期授業/Fall	66
【X6342】	社会学研究1	〔GEORGE HANN〕	秋学期授業/Fall	67
【X6343】	社会学研究2	〔小杉 亮子〕	春学期集中/Intensive(Spring)	68
【X6344】	社会学研究3	〔丸山 友美〕	春学期集中/Intensive(Spring)	69
【X6345】	社会調査法1	〔三井 さよ〕	春学期授業/Spring	70
【X6346】	社会調査法2	〔胡中 孟徳〕	春学期授業/Spring	71
【X6347】	社会調査法3	〔樋口 明彦〕	秋学期授業/Fall	72
【X6348】	社会学原典研究1	〔馬場 智一〕	春学期授業/Spring	73

SOC600E1 - 1103 (社会学 / Sociology 600)

基礎演習 1

鈴木 智道

備考（履修条件等）：2025年度以降入学者のみ履修可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程1年生を対象に、大学院での研究の進め方、修士論文のテーマ設定、論文の構成の仕方を修得し、各自が修士課程における研究の計画・論文の構想を立てるまでを支援する。あわせて、「研究」とは何か、「論文を書く」とはどのようなことかについての基本的な理解の獲得を目指す。

【到達目標】

各自の問題関心と論文のテーマを確定し、研究の方法を模索しながら具体的な研究計画を立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各回1人～複数名の報告者を決め、それぞれの「研究計画」「論文構想」について報告し、出席者全員での討議を重ねる。
課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この演習の目的と進め方
第2回	研究倫理教育	研究倫理eラーニングコース（eL CoRE）の受講
第3回	研究課題の整理①	研究計画の検討
第4回	研究課題の整理②	研究計画の再検討
第5回	研究課題の整理③	研究計画の再検討
第6回	総合演習の準備①	総合演習の報告レジュメの検討（第一次）
第7回	総合演習の準備②	総合演習の報告レジュメの検討（第一次）
第8回	総合演習の準備③	総合演習の報告レジュメの検討（第二次）
第9回	総合演習の準備④	総合演習の報告レジュメの検討（第二次）
第10回	総合演習ふりかえり	総合演習をふまえた課題の抽出
第11回	修論構想のブラッシュアップ①	先行研究の批判的検討
第12回	修論構想のブラッシュアップ②	先行研究の批判的検討
第13回	修論構想のブラッシュアップ③	修士論文「序章」の粗稿を書く
第14回	修論構想のブラッシュアップ④	修士論文「序章」の粗稿を書く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜、授業内で指示する。

【参考書】

適宜、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

担当回の報告内容（50%）と毎回の議論への参加（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>歴史社会学、教育社会学

<研究テーマ>教育現象の歴史社会学

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to work out the details of each individual research plan for writing a master thesis. Students are expected to make the research theme clear and decide on the research plan.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on class reports (50%) and in-class contribution (50%).

SOC600E1 - 1104 (社会学 / Sociology 600)

基礎演習 2

恵羅 さとみ

備考（履修条件等）：2025年度以降入学者のみ履修可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学コースの修士課程1年生を対象に、修士論文における研究テーマと研究方法を明確化し、学術論文作成に必要な文章の書き方を学ぶ。

【到達目標】

それぞれが執筆する修士論文のテーマを明確化し、具体的な問いを立てる。研究目的に照らして適切な方法と研究対象を選択し、先行研究の整理を行う。最終的に、修士論文の序章に相当する文章の作成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各回1人〜複数名の報告者を決め、受講者の報告に基づき、出席者全員での討議を重ねる。
課題等へのフィードバックは、各回の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この演習の目的と進め方
第2回	論文の主題と方法①	先行研究に学ぶ①
第3回	論文の主題と方法②	先行研究に学ぶ②
第4回	論文の主題と方法③	先行研究に学ぶ③
第5回	論文の主題と方法④	先行研究に学ぶ④
第6回	修士論文の構想報告①	論文構想の報告と検討①
第7回	修士論文の構想報告②	論文構想の報告と検討②
第8回	修士論文の構想報告③	論文構想の報告と検討③
第9回	修士論文の構想報告④	論文構想の報告と検討④
第10回	修士論文序章の作成①	論文序章の文章化と検討①
第11回	修士論文序章の作成②	論文序章の文章化と検討②
第12回	修士論文序章の作成③	論文序章の文章化と検討③
第13回	修士論文序章の作成④	論文序章の文章化と検討④
第14回	まとめ	レポートの提出と総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜、授業内で指示する。

【参考書】

適宜、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

担当回の報告内容および毎回の議論への参加（60%）、レポート（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞国際社会学、産業・労働社会学

＜研究テーマ＞産業再編成と労使関係、越境的な人の移動

＜主要研究業績＞『建設労働と移民一日米における産業再編成と技能』（名古屋大学出版会、2021年）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide first-year master's students to clarify the research topic and research method for their master's thesis and learn the writing techniques necessary for creating an academic paper. At the end of the course, students are expected to write the first draft of a review of previous research, which serves as the introduction to their master's thesis.

Learning activities outside of classroom: Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria: Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end paper: 40%, in class contribution: 60%

SOC600E1 - 1105 (社会学 / Sociology 600)

基礎演習 3

藤田 真文

備考（履修条件等）：社会学基礎演習 3、メディア社会学基礎演習 3 と合同 2025 年度以降入学者のみ履修可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義ではアカデミック・ライティングの基本を学びながら、修士1年目の研究成果を振り返り、修士論文のイントロダクションを執筆するまでを実践していく。

【到達目標】

修士2年生が修士1年目の研究成果をまとめ、修士論文のイントロダクションを書くことができるようになっている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

「アーギュメントを作る」からテキストの各章を輪読し、受講生自らの論文テーマへの適用することを繰り返していきます。最終的に修士論文のイントロダクションを書くことができるようになっているかをレポートで確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方	授業の進め方を確認する
第2回	アーギュメントを作る	テキストの輪読
第3回	アーギュメントを作ってみる	受講生の報告
第4回	アカデミックな価値を作る	テキストの輪読
第5回	アカデミックな価値を作ってみる	受講生の報告
第6回	総合演習の準備	受講生の報告
第7回	パラグラフを作る	テキストの輪読
第8回	パラグラフを作ってみる	受講生の報告
第9回	パラグラフを解析する／長いパラグラフを作る	テキストの輪読
第10回	長いパラグラフを作ってみる	受講生の報告
第11回	先行研究の引用	テキストの輪読
第12回	先行研究を引用してみる	受講生の報告
第13回	イントロダクションにすべて書く	テキストの輪読
第14回	イントロダクションを書いてみる	受講生の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

阿部幸大（2024）『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社、1,800円

【参考書】

M. アルヴェッソン・J. サンドバーグ（2024）『面白くて刺激的な論文のためのリサーチ・クエスションの作り方と育て方[第2版]』佐藤郁哉訳、白桃書房、2,727円

【成績評価の方法と基準】

授業内での報告とディスカッションへの参加（評価の50％）
最終レポート（評価の50％）

【学生の意見等からの気づき】

少人数科目なので、授業改善アンケートは実施しませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、マス・コミュニケーション論
<研究テーマ>ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析
<主要研究業績>藤田真文（2006）『ギフト、再配達: テレビ・テキスト分析入門』せりか書房

藤田真文(共編著：丹羽美之)（2013）『メディアが震えた：テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会
藤田真文編（2016）『メディアの卒論：テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房
藤田真文(2024)『テレビドラマ研究の教科書：ジェンダー・家族・都市』青弓社

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, you will learn the basics of academic writing, reflect on the results of your first year of graduate school, and put into practice the writing of an introduction to your master's thesis.

【Learning Objectives】 Second-year master's students are able to summarize the results of their first-year research and write the introduction to their master's thesis.

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Participation in in-class reports and discussions (50% of the evaluation)

Final report (50% of the evaluation)

SOC600E1 - 1102 (社会学 / Sociology 600)

社会学基礎演習 3

藤田 真文

備考（履修条件等）：基礎演習 3、メディア社会学基礎演習 3 と合同 2024 年度以前社会学コース入学者のみ履修可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義ではアカデミック・ライティングの基本を学びながら、修士 1 年目の研究成果を振り返り、修士論文のイントロダクションを執筆するまでを実践していく。

【到達目標】

修士 2 年生が修士 1 年目の研究成果をまとめ、修士論文のイントロダクションを書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

「アーギュメントを作る」からテキストの各章を輪読し、受講生自らの論文テーマへの適用することを繰り返していきます。最終的に修士論文のイントロダクションを書くことができるようになっていくかをレポートで確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方	授業の進め方を確認する
第 2 回	アーギュメントを作る	テキストの輪読
第 3 回	アーギュメントを作ってみる	受講生の報告
第 4 回	アカデミックな価値を作る	テキストの輪読
第 5 回	アカデミックな価値を作ってみる	受講生の報告
第 6 回	総合演習の準備	受講生の報告
第 7 回	パラグラフを作る	テキストの輪読
第 8 回	パラグラフを作ってみる	受講生の報告
第 9 回	パラグラフを解析する／長いパラグラフを作る	テキストの輪読
第 10 回	長いパラグラフを作ってみる	受講生の報告
第 11 回	先行研究の引用	テキストの輪読
第 12 回	先行研究を引用してみる	受講生の報告
第 13 回	イントロダクションにすべて書く	テキストの輪読
第 14 回	イントロダクションを書いてみる	受講生の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

阿部幸大（2024）『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社、1,800 円

【参考書】

M. アルヴェッソン・J. サンドバーグ（2024）『面白くて刺激的な論文のためのリサーチ・クエスションの作り方と育て方 [第 2 版]』佐藤郁哉訳、白桃書房、2,727 円

【成績評価の方法と基準】

授業内での報告とディスカッションへの参加（評価の 50 %）
最終レポート（評価の 50 %）

【学生の意見等からの気づき】

少人数科目なので、授業改善アンケートは実施しませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、マス・コミュニケーション論
<研究テーマ>ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析
<主要研究業績>藤田真文（2006）『ギフト、再配達: テレビ・テキスト分析入門』せりか書房

藤田真文(共編著：丹羽美之)（2013）『メディアが震えた：テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会

藤田真文編（2016）『メディアの卒論：テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房

藤田真文(2024)『テレビドラマ研究の教科書：ジェンダー・家族・都市』青弓社

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, you will learn the basics of academic writing, reflect on the results of your first year of graduate school, and put into practice the writing of an introduction to your master's thesis.

【Learning Objectives】 Second-year master's students are able to summarize the results of their first-year research and write the introduction to their master's thesis.

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Participation in in-class reports and discussions (50% of the evaluation)

Final report (50% of the evaluation)

SOC600E1 - 2102 (社会学 / Sociology 600)

メディア社会学基礎演習 3

藤田 真文

備考（履修条件等）：基礎演習 3、社会学基礎演習 3 と合同 2024 年度以前メディアコース入学者のみ履修可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義ではアカデミック・ライティングの基本を学びながら、修士1年目の研究成果を振り返り、修士論文のイントロダクションを執筆するまでを実践していく。

【到達目標】

修士2年生が修士1年目の研究成果をまとめ、修士論文のイントロダクションを書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

「アーギュメントを作る」からテキストの各章を輪読し、受講生自らの論文テーマへの適用することを繰り返していきます。最終的に修士論文のイントロダクションを書くことができるようになっていくかをレポートで確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方	授業の進め方を確認する
第2回	アーギュメントを作る	テキストの輪読
第3回	アーギュメントを作ってみる	受講生の報告
第4回	アカデミックな価値を作る	テキストの輪読
第5回	アカデミックな価値を作ってみる	受講生の報告
第6回	総合演習の準備	受講生の報告
第7回	パラグラフを作る	テキストの輪読
第8回	パラグラフを作ってみる	受講生の報告
第9回	パラグラフを解析する／長いパラグラフを作る	テキストの輪読
第10回	長いパラグラフを作ってみる	受講生の報告
第11回	先行研究の引用	テキストの輪読
第12回	先行研究を引用してみる	受講生の報告
第13回	イントロダクションにすべて書く	テキストの輪読
第14回	イントロダクションを書いてみる	受講生の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

阿部幸大 (2024) 『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社、1,800円

【参考書】

M. アルヴェッソン・J. サンドバーグ (2024) 『面白くて刺激的な論文のためのリサーチ・クエスションの作り方と育て方[第2版]』佐藤郁哉訳、白桃書房、2,727円

【成績評価の方法と基準】

授業内での報告とディスカッションへの参加（評価の50％）
最終レポート（評価の50％）

【学生の意見等からの気づき】

少人数科目なので、授業改善アンケートは実施しませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、マス・コミュニケーション論
<研究テーマ>ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析
<主要研究業績>藤田真文 (2006) 『ギフト、再配達: テレビ・テキスト分析入門』せりか書房

藤田真文(共編著：丹羽美之) (2013) 『メディアが震えた：テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会
藤田真文編 (2016) 『メディアの卒論：テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房
藤田真文(2024) 『テレビドラマ研究の教科書：ジェンダー・家族・都市』青弓社

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, you will learn the basics of academic writing, reflect on the results of your first year of graduate school, and put into practice the writing of an introduction to your master's thesis.

【Learning Objectives】 Second-year master's students are able to summarize the results of their first-year research and write the introduction to their master's thesis.

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Participation in in-class reports and discussions (50% of the evaluation)

Final report (50% of the evaluation)

SOC500E1 - 1302 (社会学 / Sociology 500)

統計分析法

胡中 孟徳

備考（履修条件等）：博士後期課程「社会調査法2」と合同、専門社会調査士科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会統計学の基礎を学びつつ、それを実際に社会調査によって得られたデータに適用する方法を学習する。これにより、社会学的な発想に導かれた計量分析の実際を知り、それを自ら行うための基本的な技術の修得をめざす。社会現象を実際のデータを用いて分析することを通じ、理論的説明と実証分析の対応関係についての実践的な感覚を深める。

【到達目標】

主に重回帰分析と因子分析の学習を通して、多変量解析の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

多変量解析の基礎に関する講義と統計ソフト SPSS を用いた実習をおこない、それに対するフィードバックを通じて理解を深める。授業では、「SPSS：リモートデスクトップ」を利用する。利用方法は授業でも解説するが、可能な場合は、あらかじめ自分のパソコンに「SPSS：リモートデスクトップ」をインストールしておくことを勧める。詳細は多摩情報センターウェブサイト「ソフトウェア」の「SPSS：リモートデスクトップによる利用」を参照されたい。取り上げる手法は、履修者の理解状況などに応じて調整する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：社会学と多変量解析	社会学と多変量解析
第2回	代表値と散布度	中心がどのあたりにあるのかと散らばりの程度に関する統計量を復習する
第3回	推測統計の基礎	推測統計の基礎について概説する
第4回	線形代数の基礎	線型代数の基礎知識とデータの関連について説明する
第5回	説明変数・目的変数と二変量回帰モデル	二変量回帰モデルの考え方について解説する
第6回	回帰理論の数学モデル	誤差項と回帰係数・切片について線型代数を用い解説する
第7回	重回帰分析の導入	回帰分析の数学モデルの重回帰分析への拡張を行う
第8回	最小二乗推定と多重共線性	回帰モデルの推定方法の1つであるOLSと、重回帰分析における多重共線性の問題について解説する
第9回	偏回帰係数の検定とモデルの評価	偏回帰係数を中心としたモデルの解釈を学ぶ
第10回	重回帰モデルの使用とモデルの改善	モデルの改善・評価について解説する
第11回	因子分析の数学モデル	因子分析の数学的構造について解説する
第12回	探索的因子分析の実際	探索的因子分析の事例を紹介する
第13回	探索的因子分析と確証的因子分析	探索的因子分析との比較により、確証的因子分析の概略を学ぶ
第14回	共分散構造分析およびその他の分析手法	その他の多変量解析法について概説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【参考書】

ボンシュテット&ノーキ, 1990, 『社会統計学』ハーベスト社。
片瀬一男編, 2007, 『社会統計学』放送大学教育振興会。
その他、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各自が設定したテーマについて、授業で取り上げた分析を使用した授業内報告（40％）とレポート（60％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞教育社会学・生活時間研究

＜研究テーマ＞生活時間と格差

＜主要研究業績＞

中村高康・平沢和司・荒牧草平・中澤涉編『教育と社会階層: ESSM全国調査からみた学歴・学校・格差』東京大学出版会（2018年、章分担執筆）。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to develop a basic understanding of multivariate analysis in quantitative methods through secondary data analysis. Grading will be decided based on in-class contribution (40%) and reports(60%). The goal of this course is to understand the basics of multivariate analysis, mainly through the study of multiple regression and factor analysis. Your study time will be more than four hours for a class.

SOC500E1 - 1304 (社会学 / Sociology 500)

調査研究法

三井 さよ

備考（履修条件等）：博士後期課程「社会調査法Ⅰ」と合同、専門社会調査士科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の研究において、受講生各自が社会調査を企画・設計し、実施をおこなうために必要な知識と技法を習得する。そのために社会学の優れた調査研究やそれに関連する方法論的な文献を講読し、社会学の各文献の問題関心とそこから導き出されたデータ収集・分析法について学ぶ。さらに、受講者が各自の問題関心に応じた調査の設計やデータ分析の方向性を構想するとともに、受講生同士のディスカッションを通してその具体化と洗練を図る。

【到達目標】

- ・優れた研究の講読を通して、それらが研究対象の特性と結びつけてどのような調査・分析を行っているか、その思考法を理解することができる。
- ・それらの理解を活かしつつ、学生が自身の問題関心に応じた調査デザイン・データ分析の方法を構想し、洗練させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンラインあるいはハイブリッドでの演習の形式を採る。授業内での文献に関する受講生の発表、また受講生自身の研究テーマとリサーチデザインについての報告の発表に基づいて授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	総論 1	社会学と社会調査
第2回	総論 2	社会調査の諸類型
第3回	総論 3	社会調査の倫理
第4回	研究計画 1	研究テーマに関する先行研究のフローと課題の鮮明化
第5回	研究計画 2	既存統計データの加工・分析
第6回	フィールドワークの企画・設計 1	調査のテーマ、主旨と目的
第7回	フィールドワークの企画・設計 2	調査の範囲、予算とスケジュール
第8回	フィールドワークの企画・設計 3	調査研究法の選択
第9回	フィールドワークの実践 1	観察調査とインタビュー調査
第10回	フィールドワークの実践 2	テキストデータの分析
第11回	フィールドワークの実践 3	受講者の研究への応用に関する討論
第12回	社会関係を計量する 1	調査の実例から
第13回	社会関係を計量する 2	受講者の研究への応用に関する討論
第14回	各自の調査デザインの最終発表と相互討論	受講生各自がそれまでの講義内容を活かして、自分自身の研究テーマに即したリサーチデザインを報告し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

毎回ごとで授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 50 %、報告の内容評価 50 %、十分に準備した報告を行い、修士論文に相応しい調査計画を立案できていること。

【学生の意見等からの気づき】

双方向的なコミュニケーションを重視し、履修者によるディスカッションへの積極的な参加を促す。

【学生が準備すべき機器他】

PCによるアクセスが必須。

【その他の重要事項】

専門社会調査士資格のH科目に該当する。
博士後期課程「社会調査法Ⅰ」と合同で行う。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞臨床社会学

＜研究テーマ＞支援やケアの相互作用論的分析

＜主要研究業績＞『知的障害・自閉の人たちと「かわり」の社会学——たこの木クラブを研究する』2023年、生活書院

【Outline (in English)】

In this course, students will learn how to design surveys and analyze data by linking them to sociological research objectives and social theory. By the end of the course, students will understand the process of data collection and analysis in sociological research by reviewing classics and recent excellent research. In addition, students will develop their own research design and data analysis methods based on their own interests, and refine them through mutual discussion.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class presentation:50%, in class contribution:50%

SOC500E1 - 1305 (社会学 / Sociology 500)

質的資料分析法

樋口 明彦

備考（履修条件等）：博士後期課程「社会調査法3」と合同、専門社会調査士科目

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、質的データの収集と分析方法を概説することである。インタビュー、参与観察、ライフヒストリー分析といった手法を取り上げ、質的調査の方法論について体系的に講義する。さらに、インタビューデータ分析のワークショップを行い、具体的な分析方法を学ぶ。

【到達目標】

①質的調査の方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

講義および日本語文献講読。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	量的調査と質的調査
第2回	質的調査の手法	参与観察法・フィールドワーク・インタビュー・ライフヒストリー分析
第3回	質的データ分析の理論 (1)	第1章
第4回	質的データ分析の理論 (2)	第2章
第5回	質的データ分析の理論 (3)	第3章
第6回	質的データ分析の理論 (4)	第4章
第7回	質的データ分析の理論 (5)	第5章
第8回	質的データ分析の方法 (1)	第6章
第9回	質的データ分析の方法 (2)	第7章
第10回	質的データ分析の方法 (3)	第8章
第11回	インタビューデータ分析のワークショップ(1)	質問の作成
第12回	インタビューデータ分析のワークショップ(2)	コーディング
第13回	インタビューデータ分析のワークショップ(3)	コード・マトリックス
第14回	インタビューデータ分析のワークショップ(4)	概念モデル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤郁哉, 2008, 『質的データ分析法』新曜社.

*ただし、開講後の指示があるまで、テキストは購入しないこと。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

①平常点（100％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

ワークショップのため、ノートパソコンの持参が望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会政策

<研究テーマ> 若者政策

<主要研究業績> 樋口明彦, 2017, 「若者の社会的リスクに対する社会保障制度の射程」 乾彰夫・本田由紀・中村高康編『危機のなかの若者たち』東京大学出版会.

【Outline (in English)】

The purpose of the lecture is to provide an overview of qualitative data collection and analysis methods. We will systematically lecture on qualitative research methodology, focusing on methods such as interviews and participant observation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your grade in the class will be decided based on class contribution: 100%.

SOC500E1 - 2216 (社会学 / Sociology 500)

メディア研究実習 1

山口 仁

備考（履修条件等）：旧カリ「調査報道実習 1」

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学術的なメディア・ジャーナリズム研究（特に報道分析）に向けた実践的演習を行う。受講生は学術的な報道分析の手法を習得し、研究成果（例えば、修士論文、博士論文、学会発表、投稿論文）として完成させることを目的とする。

【到達目標】

実際に報道分析を行っている学術論文や学術書をレビューしながら、その手法を具体的に学んでいく。その上で受講生は具体的事例を自ら設定し、それに関する報道の分析を繰り返し演習として行っていく。そして研究報告や論文執筆が出来るようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

演習形式を採用する。具体的には学術論文・学術書の輪読・報告、課題の事例分析の発表・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	報道分析とは何か	現在のメディア・ジャーナリズム研究において具体的に報道を分析する意義について講義をする。「理論を用いて事例を解釈するのか」、「事例の分析を通じて理論を説明するのか」を分けて考えることの重要性について解説する。
第2回	報道分析に関する先行研究レビュー①（輪読）	報道分析に関する学術論文（学術書）の輪読を行う。ただし、論文の内容そのものではなく、分析手法に注目してレビューを行う。
第3回	報道分析に関する先行研究レビュー②（講義・輪読）	報道分析に関する学術論文（学術書）の輪読を行う。ただし、論文の内容そのものではなく、分析手法に注目してレビューを行う。できれば、「問題ある」報道分析についても明らかにしていきたい。
第4回	事例分析のテーマ報告・ディスカッション①	報道分析を行う事例を設定して報告し、その後議論する。
第5回	事例分析のテーマ報告・ディスカッション②	報道分析を行う事例を設定して報告し、その後議論する。
第6回	各自の分析報告①	実際に分析してきた内容を報告し、ディスカッションする。
第7回	各自の分析報告②	実際に分析してきた内容を報告し、ディスカッションする。
第8回	各自の分析報告③	実際に分析してきた内容を報告し、ディスカッションする。
第9回	先行研究にみられる報道分析の理論枠組みを批判的に検討する①	先行研究における報道分析がどんな理論的枠組みで行われているのかを把握し、そこにどんな問題があるのかを批判的に検討する。理論的枠組みの問題を認識することで事例分析の質を高めることを目標とする。
第10回	先行研究にみられる報道分析の理論枠組みを批判的に検討する②	先行研究における報道分析がどんな理論的枠組みで行われているのかを把握し、そこにどんな問題があるのかを批判的に検討する。理論的枠組みの問題を認識することで事例分析の質を高めることを目標とする。
第11回	担当教員による報道分析の解説（演習）	担当教員が実際に行ってきた、もしくはは行っている報道分析について自己反省的に解説する。
第12回	報道分析を研究発表するための実習①	分析を研究報告もしくは論文執筆へとつなげていくための模擬発表、および講評。
第13回	報道分析を研究発表するための実習②	分析を研究報告もしくは論文執筆へとつなげていくための模擬発表、および講評。

第14回 報道分析を研究発表するための実習③、まとめとふりかえり。 半年間の授業を振り返り、自らの研究へと反映させていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題論文・図書の輪読用資料を作成する。報告のための準備をする。講評・コメントを自身の研究に反映する。授業1回あたりの準備時間と復習時間はそれぞれ2時間（計4時間）を基準とする。

【テキスト（教科書）】

指定の教科書は無い。

【参考書】

山口仁（2018）『メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実』勁草書房、4500円（税別）
山腰修三編（2022）『対立と分断の中のメディア政治』慶應義塾大学出版会、3200円（税別）
津田正太郎ほか編（2024）『ソーシャルメディア時代の「大衆社会」論』ミネルヴァ書房、3500円（税別）
…担当者が行った報道分析をまとめた著書・編著。

【成績評価の方法と基準】

報告や発表などの平常点（50%）と期末のレポート（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

学生の研究の進捗状況を把握したうえで、実習を行っていききたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

輪読や分析報告の形式は自由ですが、パワーポイントなどのスライドでも紙媒体のレジュメ形式でも対応できることが望ましいです。

【その他の重要事項】

兼任講師なので特定の時間のオフィスアワーはありません。受講生にはメールアドレスをお伝えしますのでそちらに連絡するようにしてください。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ジャーナリズム論、マス・コミュニケーション論
＜研究テーマ＞ジャーナリズムに関する社会構築主義的研究、政治のメディア化
＜主要研究業績＞『メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実（2018年・勁草書房）』『田川誠一の挑戦（2024年・創元社）』

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire skills in academic news analysis. The goals of this course are to analyze news articles and write a academic report. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

SOC500E1 - 2217 (社会学 / Sociology 500)

メディア研究実習 2

水野 剛也

備考（履修条件等）：旧カリ「調査報道実習 2」

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広くジャーナリズム、マス・メディアに関する本格的な（多くは英語の）文献・学術論文をできるだけ多量に精読し、全体像を理解し、かつその内容についてゼミ形式で大学院にふさわしいハイレベルなディスカッション（建設的な討論）をする。本講でいう「ディスカッション」とは、共通の題材に関して受講者がお互いの所感・疑問などを交換しあい、個人的に、また全体としてより深い理解を目ざす共同作業を意味する。

【到達目標】

広くジャーナリズム、マス・メディアに関する本格的な（多くは英語の）文献・学術論文をできるだけ多量に精読し、全体像を理解し、かつその内容について大学院にふさわしいハイレベルなディスカッション（建設的な討論）をする能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、広くジャーナリズム、マス・メディアに関する本格的な（多くは英語の）文献・学術論文をできるだけ多量に精読し、かつその内容についてゼミ形式で大学院にふさわしいハイレベルなディスカッション（建設的な討論）をする。本講でいう「ディスカッション」とは、共通の題材に関して受講者がお互いの所感・疑問などを交換しあい、個人的に、また全体としてより深い理解を目ざす共同作業を意味する。

受講者数によるが、現時点では、全員が同じ文献・学術論文を精読した上で、数名がその主要な内容や所感を発表したのち、全員でディスカッションをする予定である。より詳しいスケジュールは、課題などの情報とともにシラバスにまとめて初回で明らかにする。

受講希望者は、初回にはかならず出席すること。特段の事情がない限り、第2回目以降からの受講は許可しない。ゼミ形式で大学院にふさわしいハイレベルなディスカッションをするため、希望者が多数の場合は、何らかの方法で選抜する。

講義内容や文献・学術論文に関する質問には、基本的にはすべて講義内で答える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Introduction
第2回	“Social Media and Youth Mental Health”	Reading
第3回	Ditto	Discussion
第4回	“Facebook Files”	Reading
第5回	Ditto	Discussion
第6回	“Portrayal Guidelines”	Reading
第7回	Ditto	Discussion
第8回	Mid-term review	Mid-term review
第9回	“Gender Information and Perceived Quality”	Reading
第10回	Ditto	Discussion
第11回	“Predator”	Reading
第12回	Ditto	Discussion
第13回	“Spotlight”	Reading and discussion
第14回	Summing up	Summing up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、広くジャーナリズム、マス・メディアに関する（多くは英語の）文献・学術論文をあらかじめ精読し、全体像を理解した上で、大学院にふさわしいハイレベルなディスカッション（建設的な討論）のために所感・疑問などを整理しておくことが必須である。準備学習・復習時間は各2時間を標準とするものの、本格的な（多くは英語の）文献・学術論文を多量に精読するため、一定程度の読解能力が必要で、その場合でも受講者によってはかなりの時間を要する。

【テキスト（教科書）】

適宜、教員が指示・配布する。

【参考書】

適宜、教員が指示・配布するが、ほとんどの場合、受講者自身が参考資料・文献を集める。

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は、おおまかに、平常点（ディスカッション含む授業参加）＝90%、その他＝10%程度とする。その場限りの単発の試験ではなく、日々の継続的な努力と授業参加を重視する。欠席は大きな失点となるが、かといって単に出席しただけで単位を与えることはない。積極的な参加が評価を大きく左右する。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、参加者のコメントや意見を取り入れるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

Zoomによるオンライン開講であるため、そのために必要な各種機器を準備すること。

【その他の重要事項】

広くジャーナリズム、マス・メディアに関する（多くは英語の）文献・学術論文を多量に精読するため、この分野に興味・関心のない（薄い）者の受講はすめない。

また、本講の目的は、（多くは英語の）文献・学術論文を精読し、理解することを最低限とした上で、大学院にふさわしいハイレベルなディスカッション（建設的な討論）をすることなので、単なる英語読解を超えた能力を要する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>アメリカジャーナリズム史

<研究テーマ>日系アメリカ人史

<主要研究業績>『「敵国語」ジャーナリズム』（春風社、2011年）など

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to experience the fully graduate-level practice of academic, constructive discussion based on reading of as much quality (mostly English-language) literature on journalism and mass media studies as possible.

SOC500E1 - 1202 (社会学 / Sociology 500)

理論社会学3 (生活史の社会学)

鈴木 智之

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「生活史の社会学」の基本的な考え方を、この分野の主要テキストの読解を通じて学ぶ。毎回、方法論上の争点となる問題を提起し、これをめぐって受講者間で議論を深めていきたい。

【到達目標】

実際に生活史調査を行うにせよ行わないにせよ、「生活史の方法」を理解し、そこで争点となっている問題について考えることは、自らの研究を具体化し、方法論の選択を行う上で有益である。この講義での議論を通じて、各自が、研究の方法についての考察を深めていくことが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、中心的に取り上げるテキストを指定し、その内容の簡潔な報告を求め、これについてのディスカッションを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	テーマの設定
第2回	生活史研究の歴史 (1)	中野卓『口述の生活史』から
第3回	生活史研究の歴史 (2)	桜井厚『境界文化のライフストーリー』から
第4回	生活史研究の歴史 (3)	岸政彦『同化と他者化』を中心に
第5回	生活史研究の争点 (1)	事実と語り
第6回	生活史研究の争点 (2)	構築と実在
第7回	生活史研究の争点 (3)	事例の「代表性」 1 事例研究はいかにして可能か
第8回	生活史研究の争点 (4)	対話的構築主義とその批判
第9回	生活史研究の争点 (5)	記述と対話
第10回	生活史研究の争点 (6)	語りとその原因
第11回	生活史研究の争点 (7)	個人の語りと歴史社会的現実
第12回	生活史研究の争点 (8)	オートエスノグラフィとは何か？
第13回	生活史研究の争点 (9)	書くことと解釈すること
第14回	まとめ	いかなる生活史研究を？

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。

【参考書】

毎回、中心的に取り上げるテキストを指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業への出席と報告、議論への参加をトータルに評価します (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

毎回のテーマや取り上げるテキストは、進めていく中で変更となる場合があります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 文化社会学、理論社会学

<研究テーマ> 記憶の語りの社会学

<主要研究業績> 『不確か軌跡 先天性心疾患と共に生きる人々の生活史と社会生活』(宮下、中脇との共著) ゆみる出版

【Outline (in English)】

In this lecture, we learn the fundamental ideas of Biographical approach in sociology. We will make discussion on the controversial points of the methodology.

Each student will be expected to be able to adapt the methodology to one's own research.

After each class, students are expected to spend two hours to understand the course content by reading the text presented in the class.

Grading will be decided totally based on the discussion of every week(100%).

SOC500E1 - 1203 (社会学 / Sociology 500)

理論社会学4 (ベーシックインカム研究)

岡野内 正

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ベーシックインカム研究の前提となる社会理論として、シルヴィア・フェデリーチによるフェミニズム理論の概要をつかむ。この授業では、『キャリバンと魔女』をゼミ形式で精読しながら岡野内『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』と関連づけて議論することで、その理解を深めていく。

【到達目標】

テキストの基本的な内容を理解し、報告、討論を通じて、批判的な読解力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、いわゆる読書会形式で、担当者を決めてテキストを読み、要約と疑問点、論点を出し合い、議論しつつ解決していきます。授業支援システムの掲示板に、毎回の授業の箇所について、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④議論したい論点、を書き込んでいきます。課題などへのフィードバックは、授業内で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方についての打ち合わせ。 この授業テーマに関する自由討論による授業に取り組むうえでの問題意識の明確化。
第2回	中世ヨーロッパの社会運動と政治危機	序章、第1章前半の内容に関する報告と討論。
第3回	中世ヨーロッパの社会運動と政治危機	第1章後半に関する報告と討論。
第4回	資本主義への移行における差異の構築	第2章前半に関する報告と討論。
第5回	資本主義への移行における差異の構築	第2章後半に関する報告と討論。
第6回	反抗する身体との闘い	第3章に関する報告と討論。
第7回	ヨーロッパの魔女狩り	第4章前半に関する報告と討論。
第8回	ヨーロッパの魔女狩り	第4章後半に関する報告と討論。
第9回	植民地化とキリスト教化	第5章前半に関する報告と討論。
第10回	植民地化とキリスト教化	第5章後半に関する報告と討論。
第11回	新しい囲い込み論	Re-enchantingの第1部前半に関する報告と討論。
第12回	新しい囲い込み論	同上第1部後半に関する報告と討論。
第13回	コモンズ論	同上第2部前半に関する報告と討論。
第14回	コモンズ論	同上第2部後半に関する報告と討論。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業支援システムの掲示板に、毎回の授業についての書き込みをする必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

シルヴィア・フェデリーチ著、小田原他訳『キャリバンと魔女』以文社、2017年。
Silvia Federici, Re-enchanting the World; Feminism and the Politics of the Commons, PM Press, 2019.

【参考書】

岡野内 正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程——批判開発学/SDGsとの対話』法律文化社、2021年。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加と、毎回の授業についての書き込みの4つの論点について、25点ずつ合計100点で採点します。

【学生の意見等からの気づき】

掲示板を用いて、公開で議論を進めるやり方が役に立ったという意見に基づいて、引き続き進めます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会理論、国際政治経済学

<研究テーマ>グローバル・ベーシック・インカム研究

<主要研究業績>岡野内正編著『世界のベーシックインカム運動—歴史、現状、展望』法政大学出版会、(2026年)、岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』(法律文化社、2021年)、岡野内他著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』(明石書店、2016年)など。

【Outline (in English)】

A seminar class for students who wish to understand the feminist social theory of Sylvia Federici. In this advanced class, "Caliban and The Witch" will be read and discussed with attention to T.Okanouchi's "Perspectives to Global Basic Income Scheme"(Houritsu Bunka-Sha: Kyoto, 2021).

SOC500E1 - 1204 (社会学 / Sociology 500)

理論社会学5 (社会学理論の基礎)

佐藤 成基

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会学を学ぶ上で社会学理論の基礎を身につけることは極めて重要である。この授業では、英語で書かれた最近の社会学理論の概説書を講読しながら、社会学理論の基本的発想法、主要なパラダイムとその論法について学び、その現代的な有効性についての理解を得る。

【到達目標】

社会学理論の基本的な発想法、その主要なパラダイムとその論法について学び、その現代的な有効性についての理解を得るとともに、社会学理論の諸概念や発想法を自分の研究に活かせるようなスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

David Inglis (with Christopher Thorpe), *An Invitation to Social Theory* (Polity 2019) の前半部分を講読する。毎回、受講者の一人に担当箇所の内容をまとめたレジュメを作成し、その報告をしてもらい、それに基づいて討論する。また、受講者は毎週、該当部分に関するコメント・疑問をメモにして提出する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の概要・目的・方法についての説明
第2回	社会学理論に繰り返し現れる三つのテーマ	事実と認識、構造とエージェンシー、近代性
第3回	社会学理論の前提となる古典的理論	カントとヘーゲル
第4回	3つの二項図式	近代／前近代、実証主義／解釈主義、物質と理念
第5回	機能主義理論のパラダイム (1)	パーソンズ
第6回	機能主義理論のパラダイム (2)	パーソンズ以後、およびルーマン
第7回	マルクス主義理論と批判理論のパラダイム (1)	マルクスとフランクフルト学派
第8回	マルクス主義理論と批判理論のパラダイム (2)	ハーバーマスとグラムシ
第9回	現象学のパラダイム (1)	シュッツとバーガー／ルックマン
第10回	現象学のパラダイム (2)	エスノメソドロジーとメルロ＝ポンティ
第11回	シンボリック相互行為論のパラダイム (1)	ミードとシカゴ学派
第12回	シンボリック相互行為論のパラダイム (2)	ゴッフマン
第13回	合理的選択理論と交換理論のパラダイム (1)	交換理論とコールマン
第14回	合理的選択理論と交換理論のパラダイム (2)	分析的マルクス主義と合理選択論批判

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

David Inglis (with Christopher Thorpe), *An Invitation to Social Theory* (Polity 2019)

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の参加の度合い (25%)、レジュメと報告 (25%)、ゼミ論文 (50%) によって評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学

<研究テーマ>国家とナショナリズムの比較研究、社会学の理論・学説、歴史社会学

<主要研究業績>

『国家の社会学』(青弓社、2014年)

『国民とは誰のことか ドイツ近現代における国籍法の形成と展開』(花伝社、2023年)

「国家の正当性と象徴暴力 ―ブルデューの国家論からみる国家とナショナリズム」北田暁大・筒井淳也編『岩波講座社会学 第1巻 理論と方法』(岩波書店、2023年)

【Outline (in English)】

(Course outline) By reading the first half David Inglis's *An Invitation to Social Theory* (Polity 2019, co-authored with Christopher Thorpe) carefully, the course seeks to help you understand the basic logics of the main theoretical paradigms of sociological theories and to consider their significance and validity in the contemporary world.

(Learning Objectives) For the students of sociology, it is very important to learn the basics of sociological theory. The objective of this class is to understand the "ways of theoretical thinking" in sociology and to develop skills of using the main categories and ideas of sociological theories for your own research.

(Learning activities outside of classroom) None

(Grading Criteria /Policy) Grades are based upon class participation (25%), in-class presentation assignments (25%), and seminar paper (50%).

SOC500E1 - 2202 (社会学 / Sociology 500)

メディア理論3 (ジャーナリズム研究)

別府 三奈子

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ジャーナリズムを規定しているプロフェッション論と言論の自由の概念について、さまざまな国の具体的な事例を観察する。

【到達目標】

民主社会におけるジャーナリズムの存在意義を、昨今の具体的な調査報道の事例とメディア理論の観点から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面で行う。テーマ概説、資料の共有、履修生のリサーチとレジュメ発表、ディスカッションを、サイクルで重ねる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ジャーナリズム・プロフェッション論の視座
第2回	テキスト解題	ジャーナリズムの定義、ジャーナリストの条件
第3回	社会問題の可視化	# me too運動とシーセッド前半
第4回	ジャーナリズムと人権	# me too運動とシーセッド後半
第5回	調査報道の原点	アリゾナケース (怒りを共有すること)
第6回	国際調査報道の事例	ユーチューブ局 the I File ケース (メキシコ国境難民調査報道)
第7回	中間レポート	社会改良主義とジャーナリズム
第8回	国家機密と知る権利	ペンタゴン・ペーパーズ前半
第9回	内部告発と国益	ペンタゴン・ペーパーズ後半
第10回	言論の自由をめぐる攻防	スノーデンケース前半
第11回	民主社会と情報自由法	スノーデンケース後半
第12回	記者はなぜ紛争地に行くのか	光州事件・前半
第13回	市民はなぜ記者を守るのか	光州事件・後半
第14回	市民社会とジャーナリズム	レジュメ発表とディスカッション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教材の予習・復習、授業で扱う事例の事前視聴とリプライに毎週、2時間くらいを要する。

【テキスト (教科書)】

『映画で学ぶジャーナリズム 社会を支える報道のしくみ』別府三奈子ほか編著、勁草書房、2023年

【参考書】

『調査報道ジャーナリズムの挑戦 一市民社会と国際支援戦略』花田達郎、別府三奈子、大塚一美、デビッド・カプラン著、旬報社、2017年

【成績評価の方法と基準】

授業内での討議内容 50%、期末レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

政治制度とジャーナリズムの関係について自覚を促す。

【学生が準備すべき機器他】

指定テキストの購入、日々のニュース観察

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>米国ジャーナリズム思想史

<主要単著>『ジャーナリズムの起源』世界思想社、2006年。『アジアでどんな戦争があったのか 戦跡を辿る旅』めこん、2006年。

【Outline (in English)】

We observe the concepts of profession theory and freedom of speech, which govern journalism, through the cases of in east and west.

SOC500E1 - 2203 (社会学 / Sociology 500)

メディア理論 4 (知と権力の社会学)

佐幸 信介

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近現代の人間主義／脱人間主義について、生命に関与するテクノロジーと権力の問題設定から考察する。

【到達目標】

自然を保全することと保存することの違い、人の命と動物の命との境界、人為的関与による生物多様性、動物とペットや伴侶種、ドメスティケーションと生命操作など、日常生活では問わない問題、問にくい、問題に対して、リサーチ・クエスチョンを多角的に立てて、具体的に考察できるようになることがこの講義の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

立岩真也『人命の特別を言わず／言う』を基軸のテキストとして、各自の研究テーマと関連づけながら、報告の分担を決めディスカッションと考察を重ねていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要と報告分担の決定
第2回	脱人間主義という考え方①	テキスト第1章・前半の分担報告とディスカッション
第3回	脱人間主義という考え方②	テキスト第1章・後半の分担報告とディスカッション
第4回	現代におけるペットについて考える	具体的事例とディスカッション
第5回	人命の特別について①	テキスト第2章・前半の分担報告とディスカッション
第6回	人命の特別について②	テキスト第2章・後半の分担報告とディスカッション
第7回	メディア表象とカニバリズム	具体的な表象作品をめぐるディスカッション
第8回	痛みと死について①	テキスト第3章・前半の分担報告とディスカッション
第9回	痛みと死について②	テキスト第3章・後半の分担報告とディスカッション
第10回	不自然な身体と不自然な言葉①	具体的な表象作品をめぐるディスカッション
第11回	不自然な身体と不自然な言葉②	具体的な表象作品をめぐるディスカッション
第12回	人間的なもの①	テキスト第4章・前半の分担報告とディスカッション
第13回	人間的なもの②	テキスト第4章・後半の分担報告とディスカッション
第14回	総括的ディスカッション	全体のふりかえり

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

立岩真也『人命の特別を言わず／言う』筑摩書房、2022年

【参考書】

各講義時に、文献を紹介

【成績評価の方法と基準】

分担報告とディスカッションの参加度および達成度で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

文化社会学、メディア研究

<研究テーマ>

空間論、スマートシティ論、住宅社会学

<主要研究業績>

『空間と統治の社会学』(青弓社、2021年)

『国道16号線スタディーズ』(共著、青弓社、2018年)

『プラットフォーム資本主義を解説する』(共著、ナカニシヤ出版、2023年)
『映画で学ぶジャーナリズム』(共著、勁草書房、2023年)ほか

【Outline (in English)】

Course outline: In this course, you will be able to consider the technology and power in relation to life from the perspectives of humanism/anti-humanism, the relationship between humans and animals, the relationship between humans and plants, species and preservation, and the natural environment and conservation.

Learning objectives: The goal of this course is to enable students to formulate multifaceted research questions and consider concretely issues that are not raised in everyday life or are difficult to ask, such as the difference between preserving and saving nature, the boundary between human life and animal life, biodiversity affected by human intervention, animals and pets/companion species, domestication and life manipulation, etc.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Your overall grade in the class will be decided based on the following. Sharing report: 50%. Participation in discussion: 50%.

SOC500E1 - 1300 (社会学 / Sociology 500)

理論社会学基礎 1

徳安 彰

備考（履修条件等）：学部「社会学史Ⅰ」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに19世紀から20世紀前半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、諸理論の学修を通して「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、
①主要な古典的社会学者の理論の概要や主要概念を、原典を通して理解し、自分の文章で論述できるようになる。
②「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」という観点から、諸理論の意義を自分の文章で説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は原則として対面形式で行う。

この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。
毎回の授業のリアクションを提出してもらい、疑問点を中心に各人および全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	西洋近代の歴史と社会学の問題意識	西洋近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	古典的近代の主要な社会学者たち	19世紀から20世紀前半の主要な社会学者や学派を知る
3	コント	三段階の法則、実証主義
4	マルクス（1）	史的唯物論、階級構造と階級闘争
5	マルクス（2）	疎外、使用価値と交換価値
6	スペンサー	社会進化論、軍事型社会と産業型社会
7	テンニース	ゲマインシャフトとゲゼルシャフト
8	ヴェーバー（1）	合理化、合理性の諸類型、資本主義の精神、鉄の檻
9	ヴェーバー（2）	支配の諸類型、官僚制
10	デュルケム（1）	分業、機械的連帯と有機的連帯
11	デュルケム（2）	自殺の諸類型、近代社会と自殺
12	ジンメル（1）	社会化の形式、社会圏
13	ジンメル（2）	支配と従属の諸類型
14	古典社会学の問題意識の総括	各回で扱った社会学者の理論を関連づけて総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ドン・マーチンデール『現代社会学の系譜』未来社
ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
新陸人（編）『社会学の歩み』有斐閣
奥村隆『社会学の歴史Ⅰ・Ⅱ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

評価の要件は、期末試験（70%）、授業への積極的貢献（30%）とする。
期末試験は、短答および論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の2つの基準で評価する。学期を通した学修成果の評価という点で、到達目標①②に対応する。

授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容によって評価する。各回の内容理解という点で、到達目標①に対応する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。またリアクション・ペーパーでの、積極的な質問やコメントを歓迎する。リアクション・ペーパーに対しては、主に次回の授業の冒頭に口頭でフィードバックをはかる。受講生の積極的な参加を求める。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

社会システム理論

<研究テーマ>

グローバル時代の社会システム

<主要研究業績>

法政大学学術情報データベースを参照してください。

【Outline (in English)】

In this course we study the history of sociology, especially so-called "classic sociology" developed from 19th century to early 20th century. The goal of this course is to understand how major sociologists built their theories in the classic modern era. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant material(s). Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report (70%): In-class contribution (30%).

SOC500E1 - 1301 (社会学 / Sociology 500)

理論社会学基礎2

徳安 彰

備考（履修条件等）：学部「社会学史Ⅱ」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに20世紀半ばから後半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、諸理論の学修を通して「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、
①主要な現代的社会学者の理論の概要や主要概念を、原典を通して理解し、自分の文章で論述できるようになる。
②「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」という観点から、諸理論の意義を自分の文章で説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は原則として対面方式で行う。
この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。
毎回の授業のリアクションを提出してもらい、疑問点を中心に各人および全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	後期（高度）近代の歴史と社会学の問題意識	西洋の後期近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	後期（高度）近代の主要な社会学者たち	20世紀半ばから後半の主要な社会学者や学派を知る
3	ミード	シンボリック相互作用論、一般化された他者、Iとme
4	シュッツ	現象学的社会学、日常生活世界、間主観性、多元的現実
5	ガーフィンケル	エスノメソドロジー、背後期待、違背実験
6	ゴッフマン	ドラマツルギー、印象操作、役割距離
7	パーソンズ	行為理論、社会的機能、社会進化
8	ルーマン	システム理論、オートポイエーシス、社会分化
9	ハーバーマス	コミュニケーション的行為、公共性、生活世界
10	フーコー	規律化、主体、生権力
11	ブルデュー	文化資本、再生産、卓越性
12	ウォラーステイン	世界システム、中心と周辺
13	ギデンズ／ベック	第二の近代、再帰性、リスク社会、個人化
14	後期近代の社会学の問題意識の総括	各回で扱った社会学者の理論を関連づけて総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
新睦人（編）『社会学のあゆみ パート2』有斐閣
新睦人（編）『新しい社会学のあゆみ』有斐閣
奥村隆『社会学の歴史Ⅰ・Ⅱ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

評価の要件は、期末試験（70%）、授業への積極的貢献（30%）とする。
期末試験は、短答および論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の2つの基準で評価する。学期を通した学修成果の評価という点で、到達目標①②に対応する。

授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容によって評価する。各回の内容理解という点で、到達目標①に対応する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。授業内でもリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。またリアクション・ペーパーに対しては、主に次回の授業の冒頭に口頭でフィードバックをはかる。受講生の積極的な参加を求める。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
社会システム理論
<研究テーマ>
グローバル時代の社会システム
<主要研究業績>
法政大学学術情報データベースを参照してください。

【Outline (in English)】

In this course we study the history of sociology, especially so-called "modern and late modern sociology" developed since the middle of 20th century. The goal of this course is to understand how major sociologists built their theories in the late modern era. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant material(s). Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report (70%): In-class contribution (30%).

SOC500E1 - 1207 (社会学 / Sociology 500)

社会学特殊研究 3 (成人教育運動の国際的展開)

荒井 容子

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

成人教育政策とは一線を画す、成人教育運動は社会運動としての性格をもって各国で発展し、国際機関の発達と並行して、国際的運動としても発展してきた。その過程は、国内、国際双方で、権力による成人教育政策との緊張関係をもって展開されてきた。また同じ成人教育運動として、国内と国際双方の関係のあり方も模索されてきた。これらの具体的な歴史を、事例をもとに概観しながら、それらの関係について、分析していく。

【到達目標】

この講義では、成人教育の運動が本質的にもつその社会運動としての性格を理解し、そのうえで、成人教育運動の国内及び国際的な展開と、成人教育政策の展開と社会運動の展開との関係について考え、また、今後の成人教育運動のあり方を考える力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回 講義内容をもとに、議論をしていく。事前に資料を配布して検討してきてもらい、議論をする場合もある。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	成人教育運動をどうとらえるか (ガイダンス)	学習運動・成人教育運動と社会運動との関係
2	成人教育運動の国内展開から国際的展開へ	WEA (英国労働者教育協会) の諸外国への影響
3	成人教育運動の国際的展開への挑戦	成人教育「世界組織」の結成と世界大会
4	国際機関を通じた成人教育運動のはじまり	ユネスコ成人教育会議の開催と展開
5	国際機関を通じた成人教育運動の本格的展開	ユネスコ教育研究所の発足と展開
6	国際機関から独立した国際的成人教育運動のはじまり	国際成人教育協議会の発足
7	社会運動と国際的政策の展開 - 1970~80年代の展開 -	「開発」政策と「新しい社会運動」
8	社会運動と国際的政策の展開 - 1990年代以降の展開 -	「人間開発」政策と、新自由主義政策に対抗する運動 -
9	成人教育運動と社会運動の国際的展開 - 1970~80年代の展開 -	国際政策との呼応から「新しい社会運動」へ
10	成人教育運動と社会運動の国際的展開 - 1990年代以降の展開 -	国際的政策への介入と矛盾
11	成人教育運動の国際的展開の意味 (1)	国際機関による成人教育政策との関係
12	成人教育運動の国際的展開の意味 (2)	各国の成人教育政策との関係
13	成人教育運動の国際的展開の意味 (3)	各国の成人教育運動との関係
14	社会運動としての成人教育運動の国際的展開の意味	まとめ - 総括討議 -

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した作成したファイルを、学習支援システムを通じて事前に配布するほか、適宜指示する。

【参考書】

国際成人教育協議会(International Council for Adult Education)のホームページ <http://icae.global/>
 ユネスコ生涯学習研究所(The UNESCO Institute for Lifelong Learning)のホームページ <https://uil.unesco.org/>

【成績評価の方法と基準】

講義時の討議への積極的参加の度合いを30%、最終レポート(テーマに関する理解度と独自の見解の存在及びその質)を70%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

成人教育に関する事前の学習が不足している場合の配慮、対応の必要。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを通じて、資料を講義の事前事後に配布したり、講義準備のための指示を受講生に「お知らせ」として送ったりすることがある。講義の展開によっては、授業支援システムでの「掲示板」の活用もありうる。そこで、授業支援システムからの「お知らせ」が確実にeメールで入手できるようにしておくこと。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会教育学

<研究テーマ>成人教育運動、社会教育法制度、社会教育実践、公民館、社会教育職員

<主要研究業績>

- ①国際成人教育協議会(ICAIE)の課題意識発展の過程 - 成人教育運動の国際的展開に関する研究(1) - 『社会志林』(法政大学社会学部紀要)第54巻 第3号(2007年12月) p.55-74
- ②「成人教育運動の国際的連帯(4)」 - 第6回国際成人教育会の本会議(バレン会議)の概要と日本国内の動き - 『月刊社会教育』No.655 2010年5月号, pp.63-69
- ③「社会教育法と国際的動向」社会教育推進全国協議会『社会教育法60年 - 権利としての社会教育を活かす』2010年8月28日 pp.66-75
- ④『「成人教育運動の国際的展開」を追い続けて気づかされたこと」教育実践検討会編『問い続けるわれら - 生涯学習人として生きる』第2集

「教育実践検討会」発行 2012年4月1日 pp.320-346

- ⑤「第3編-2 社会教育・生涯学習の国際的動向(国際機関・欧米)」社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』第8版 エイデル研究所 2011年7月30日 pp.202-217
- ⑥解説「成人教育の発展に関する勧告」 pp.350-351
「カナダの成人教育・生涯学習」 pp.78-79
「国際成人教育協議会」 p.162
「ユネスコ『大衆の文化的生活への参加及び寄与を促進する勧告』」 p.596

「ハンプルク宣言」 p.504

「ユネスコ国際成人教育会議」 pp.595-596

- 社会教育・生涯学習辞典編集委員会編『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店 2012年11月30日
- ⑦「第3編-2 社会教育・生涯学習の国際的動向(国際機関・組織)」社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』第9版 エイデル研究所 2017年10月10日 pp.247-263
 - ⑧「ユネスコ第6回国際成人教育会議のための国内「草の根会議」編著『日本の社会教育・成人教育 最近12年の政策・実践・運動: 分析と提言

- 第6回国際成人教育会議(CONFINTEA VI)に向けた市民社会組織からの報告 - 』(デジタル版) 2009年11月23日
<http://prof.mt.tama.hosei.ac.jp/yarai/JDGMCON6/CSOsREPfinaljpcore100321.pdf>
 (英語版)

Social Education/Adult Education in Japan Policies, Practices and Movements during the last 12 years: Analysis and Recommendations - A Report from Civil Society Organizations to the Sixth International Conference

for Adult Education (CONFINTEA VI) - (CSOs report) written and edited by Japanese Domestic Grass-roots Meeting for CONFINTEA VI(digital), November 2009
<http://prof.mt.tama.hosei.ac.jp/yarai/JDGMCON6/CSOsREPfinalencore100107.pdf>)

- ⑨「カナダの成人識字教育者たち - 困難な中、実践のための研究運動を切り開く -」『月刊社会教育』No.606 2006年4月号 pp.64-70
- ⑩「ユネスコ第6回国際成人教育会議中間総括会議(スウォン)とコミュニティ・ラーニングセンターをめぐる議論 - ドイツ成人教育協会国際部主催のサイドイベントに注目して -」『日本公民館学会年報』第15号2018年12月10日 pp.68-74

【Outline (in English)】

This course reviews the history of adult education movements, especially international ones, and has two focuses. One is on the relation between domestic movements and international ones. The other focus is on the relation between adult education policies and adult education movements both domestic level and international one. Recognizing complex structure of these relations, we will seek to find out the challenges of adult education movements.

At the end of the course, students are expected to understand the personality of adult education movement for social movements and look at challenges of adult education movements. Students are required to be active in each class discussion. The standard preparation and review time for each class is 2 hours each.

Grading is according to the total evaluation of a final essay with the discussion of final class (70%) and class contribution (30%).

SOC500E1 - 1208 (社会学 / Sociology 500)

社会学特殊研究 4 (都市と地域の社会問題)

茅野 恒秀

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

都市と地域を対象として、そこに現れるさまざまな社会現象や社会問題のしくみを、社会構造や集団・組織、人びとの意識や行為・関係の有り様に着目して把握している社会学の文献を講読する。都市・地域・環境・災害などの領域社会学が培ってきた知見を理解することを目的とする。

【到達目標】

都市・地域・環境・災害などの領域社会学が培ってきた研究成果を講読することを通じて、社会学の研究方法を深く実践的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ディスカッションと講義を組み合わせて進める。ディスカッションの素材は①現代日本の地域社会の問題である人口減少・限界(消滅)集落に関する資料映像と、②都市・地域・環境・災害など領域社会学の研究論文の2種類である。講義では、各領域社会学が培ってきた知見を社会的現実在即して紹介することで、眼前の社会問題を現在形としてのみ捉えるのではなく、その来歴や解決の構想を含め、立体的に把握できるよう努める。受講生には読書ノート、資料映像視聴ノートの蓄積を求め、それらを講義ノートに加えてディスカッションの素材として活用することで、学習の定着と対話の深まりを経験してもらう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	資料映像視聴
第2回	文献1	移動と世代から見る都市と農村の変容
第3回	文献2	地域コミュニティの歴史的基層
第4回	文献3	地域コミュニティと災厄
第5回	文献4	地域資源管理の前近代と近代
第6回	文献5	近代と〈稲作ナショナリズム〉
第7回	文献6	地域開発の構想と現実
第8回	文献7	〈焼畑型ジェントリフィケーション〉
第9回	文献8	都市化とライフコース・エスニシティ
第10回	文献9	限界集落と消滅可能性都市
第11回	文献10	広域システムとしての地域
第12回	文献11	文化資源の持続と変容
第13回	文献12	田園回帰論の検討
第14回	まとめ	資料映像視聴とディスカッション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

都度、教材を配布・共有する。

【参考書】

都市と地域の社会学を理解する上では近現代史のリテラシーは欠かすことができない。
安岡健一, 2025, 『戦後史1945-2025：敗戦からコロナ後まで』中公新書。
を参考書とする。その他、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

各回の視聴ノートと読書ノート (70%)、ディスカッションへの参加状況(30%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉環境社会学、社会計画論、地域社会学
〈研究テーマ〉環境政策と環境運動の社会学、地域資源管理の社会的技術、環境・地域エネルギー政策
〈主要研究業績〉『環境問題の社会学：環境制御システム論の理論と応用』(共編、2020年、東信堂)、『地域社会はエネルギーとどう向き合ってきたのか』(共編、2023年、新泉社)

【Outline (in English)】

The course involves reading sociological literature that examines the mechanisms of various social phenomena and problems emerging in cities and local communities, focusing on understanding these through the lens of social structures, groups and organizations, as well as people's consciousness, behaviors, and relationships. The aim is to comprehend the insights cultivated by field-specific sociology such as urban studies, regional studies, environmental studies, and disaster studies.

The goal is to gain a deep and practical understanding of sociological research methods by interpreting research findings cultivated in the fields of urban, regional, environmental, and disaster sociology.

Grades will be based on notes for each session (70%) and participation in discussions (30%).

SOC500E1 - 1209 (社会学 / Sociology 500)

社会学特殊研究 5

小杉 亮子

備考(履修条件等): 博士後期課程「社会学研究 2」と合同

その他属性:

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

この授業では、社会学的な観点から社会運動や市民活動、集合行為、ボランティアな活動について研究を実施するにあたり、必要な理論的方法論的知識を学ぶとともに、修士論文に向けてより良い研究を進めるためにはどのようにしたらよいか、参加者で議論していきます。

【到達目標】

- 自身の修士論文のための研究を進めるにあたり、理論的思想的方法論的ヒントを得る。
- 社会運動論および社会運動研究に関する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は以下の3つのパートから構成されます。

(1) 社会運動論および社会運動研究に関する講義
小杉が社会運動論や最近の社会運動研究の動向について講義します。

(2) 社会運動研究の方法論を具体的に学ぶことを目的としたフィールドワーク
社会運動や市民運動の資料を保存する「立教大学共生社会研究センター」を訪問し、実際に資料に触れます。

(3) 受講者による研究発表とディスカッション
受講者に、学位論文のための研究計画に関連した研究発表をおこなってもらい、受講者全員でディスカッションをします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的・内容・評価方針を説明するとともに、受講者の自己紹介を兼ねて「研究ビブリオバトル」を実施します。
第2回	社会運動論の見取り図	社会運動論について講義をします。
第3回	社会運動の右翼と左翼	社会運動論について講義をします。
第4回	社会運動の保守と革新	社会運動論について講義をします。
第5回	フィールドワーク 1	立教大学共生社会研究センターを訪問し、社会運動アーカイブズについて学ぶとともに、実際に社会運動資料に触れ、社会運動研究の方法論を学びます。
第6回	フィールドワーク 2	立教大学共生社会研究センターを訪問し、社会運動アーカイブズについて学ぶとともに、実際に社会運動資料に触れ、社会運動研究の方法論を学びます。
第7回	フィールドワーク 3	立教大学共生社会研究センターを訪問し、社会運動アーカイブズについて学ぶとともに、実際に社会運動資料に触れ、社会運動研究の方法論を学びます。

第8回	デモと暴力	社会運動論について講義をします。
第9回	空間の自治	社会運動論について講義をします。
第10回	受講者による研究発表 1	受講者は自身の研究に関する発表をおこない、受講者全員でディスカッションします。
第11回	受講者による研究発表 2	受講者は自身の研究に関する発表をおこない、受講者全員でディスカッションします。
第12回	受講者による研究発表 3	受講者は自身の研究に関する発表をおこない、受講者全員でディスカッションします。
第13回	受講者による研究発表 4	受講者は自身の研究に関する発表をおこない、受講者全員でディスカッションします。
第14回	受講者による研究発表 5	受講者は自身の研究に関する発表をおこない、受講者全員でディスカッションします。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

使用しない。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

(1) リアクションペーパー (50%)

集中講義1日目(7月27日)と2日目(7月28日)は、最後に、その日に学んだ内容についての感想と考察を書くリアクションペーパーを提出してもらいます。学んだ内容を適切に理解しているか、また、それについて自分なりの考察を深められているか、という2つの観点から評価します。

(2) 研究発表 (25%)

集中講義3日目(7月29日)に、受講者は学位論文に向けた研究発表をおこないます。発表のために適切な準備がされていたかという点と発表内容の2つの観点から評価します。

(3) ディスカッションへの貢献 (25%)

3日間をとおして、ディスカッションへの積極的な参加が求められます。発言の頻度および内容にもとづいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- 本年度に新規に担当するため、これまでアンケートを実施してません。

- ただし、授業の進め方や内容に関する受講生からの要望や意見にたいしては、できる限り柔軟に対応したいと考えています。受講生のみなさんは、なにかあれば、遠慮なく伝えてください。

【学生が準備すべき機器他】

- 課題提出のため学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- 授業の準備のため、5～6月に、受講者全員に参加していただいてZoomでのミーティングを実施します。時期が近くなりましたら、日程調整のために連絡しますので、学習支援システムからの連絡には注意をしてください。

- 7月28日(火)は、フィールドワークとして、立教大学共生社会研究センター(豊島区・池袋)を訪問します。受講者は全員、このフィールドワークに参加することが求められます。

- この授業では、受講生の自力による思考を重視するため、生成AIの使用は禁止します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

社会学、社会運動論

<研究テーマ>

近代日本の社会運動史、1960年代の社会運動、学生運動、生活史

<主要研究業績>

小杉亮子, 2018, 『東大闘争の語り——社会運動の予告と戦略』新曜社。

濱西栄司ほか, 2020, 『問いからはじめる社会運動論』新曜社。(共著)
大野光明・小杉亮子・松井隆志, 2025, 『闘う1980年代——社会運動史研究6』新曜社。(共編著)

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire advanced knowledge of theories and methodologies for study of social activism. This course also provides students with opportunities in which they could present their own research and discuss how their research plan could be developed.

(Learning Objectives)

- At the end of the course, students are expected to get some theoretical and methodological inspiration, with which they could advance their own research for master's thesis.
- At the end of the course, students are expected to acquire advanced understanding on social movement studies.

(Learning Activities outside of Classroom)

- Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to write essays, to finish assignments, and to understand the course content.

(Grading Criteria and Policies)

- Grading will be decided based on reaction papers (50%), research presentation(25%), and in-class contribution(25%).

SOC500E1 - 1210 (社会学 / Sociology 500)

社会学特殊研究 6

丸山 友美

備考（履修条件等）：博士後期課程「社会学研究 3」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初期テレビドキュメンタリー史を研究するなかで、講師が実践するメディア研究の方法を、具体的な番組や事例を使って説明します。修士論文のテーマ・対象・方法を模索する履修者が、自分の研究をイメージできるようになることを目指します。

【到達目標】

修士論文のテーマ・対象・方法を模索する履修者が、研究をデザインできるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

講義の回は、紙に印刷したレジュメを配布し、それをもとに説明します。視聴の回は、ワークシートを配布し、それをもとに上映番組の能動的な視聴をおこないます。

（配布資料は、すべて「日本語」です）

ワークショップの回は、13回目までの授業を踏まえて「ワタシがやってみたいメディア研究」をテーマに授業者が発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	メディア研究の方法①	表現の変遷からメディア史を記述する
第2回	テレビを「再読」する①	『日本の素顔』と『ノンフィクション劇場』（視聴①）
第3回	テレビドキュメンタリーの成立①	録音構成からフィルム構成へ
第4回	テレビドキュメンタリーの成立②	反骨のドキュメンタリストが映した戦後日本
第5回	テレビを「再読」する②	『現代の主役』より2番組（視聴②）
第6回	テレビドキュメンタリーの青春①	被写体を凝視し続ける表現手法への挑戦
第7回	テレビドキュメンタリーの青春②	物語らないテレビの衝撃／日本人の価値観を問う
第8回	テレビを「再読」する③	『遠くへ行きたい』と『お荷物小荷物』（視聴③）
第9回	テレビの壁を突破する①	共犯関係を結ぶ被写体と制作者
第10回	テレビの壁を突破する②	沖縄返還と「脱ドラマ」
第11回	メディア研究の方法②	表現を生み出す〈ヒト〉に注目する／Production Studies
第12回	メディア研究の方法③	産業を支える〈ヒト〉に注目する／Critical Production Studies of Media Infrastructure
第13回	メディア研究の方法④	録画機を使う〈ヒト〉に注目する／Cultural Studie of Media Feminist Activism
第14回	ワークショップ	真剣大学院生しゃべり場：ワタシがやってみたいメディア研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習・復習などで、授業外の学習が週に数時間必要です。事前に指定テキスト（教科書）を読んでください。授業内容をより理解するために、様々なメディアと日々接することを心がけてください。

【テキスト（教科書）】

丸山友美『日本の初期テレビドキュメンタリー史』青弓社、2023年

【参考書】

藤田真文『テレビドラマ研究の教科書——ジェンダー・家族・都市』青弓社、2024年

今野勉『テレビマン伊丹十三——テレビは映画よりも面白い？』東京大学出版会、2023年

丹羽美之『日本のテレビ・ドキュメンタリー』東京大学出版会、2020年

丹羽美之編『NNNドキュメント・クロニクル1970-2019』東京大学出版会、2020年

NHK放送文化研究所編『テレビ・ドキュメンタリーを創った人々』NHK出版、2018年

【成績評価の方法と基準】

ワークシートの作成（3回分）とそれに基づく授業ディスカッションへの参加（75%）、そしてワークショップでの発表内容（25%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2026年度が初回のため記載しません。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞社会学

＜研究テーマ＞テレビ研究

＜主要研究業績＞

https://researchmap.jp/tomomi_maruyamaにて確認してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course is designed to help master's students discover their own theme, subjects, and methods.

(Learning Objectives)

This course aims to provide clues students explore their master's research questions, themes, and methodologies to design their own research.

(Learning activities outside of classroom)

Preparing for and reviewing class requires several hours of study outside of class each week. Enjoy discussion and share opinions with classmates.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation will be based on the worksheets (for three sessions), participation in class discussions based on those worksheets (75%), and the presentations in workshops (25%).

SOC500E1 - 2207 (社会学 / Sociology 500)

メディア特殊研究3 (ブランド広告の意味研究)

青木 貞茂

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会においてブランドは、私達が生きていく上で無視できないほど大きな意味・価値を持った存在である。このブランドを創造するのが広告情報であり、どのように私達に働きかけ、影響を与えるのか、意味・価値の生成構造について構造主義、記号論、語用論をふまえ明らかにする。

【到達目標】

現代のブランド広告などに関して構造主義・記号論などの方法を駆使して、その構造・意味を分析・把握することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主にブランド広告あるいは関連情報を中心として、記号論、言語学における語用論等の方法を駆使し、様々な情報を分析素材として構造・意味解析を実行する。その隠された意味、表現構造を明らかにし、ともに情報の意味についての考察を深めていく。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと全必要な予備知識などについて説明
第2回	現代社会におけるブランド、広告、文化	ブランド、広告、文化は、現代社会の中でどのような機能と役割を果たしているのか
第3回	ブランドの存在論	現代社会におけるブランドの存在意義
第4回	ブランド価値の発見	ブランドの価値、意味内容のための調査方法
第5回	ブランド価値の構造化	ブランドの価値、意味内容を定義する
第6回	ブランド価値の管理	ブランドの価値をぶれずに管理する手法
第7回	ブランド・シンボルの概念	ブランドの表現を構成するシンボルの内容
第8回	ブランドにおけるシンボル・チェーン	ブランドのシンボル間のチェーン構造とはどのようなものか
第9回	成功したブランド広告のケース分析	世界的に成功したブランド広告の事例を分析
第10回	ブランド広告の構造分析	ブランド広告を構造主義、記号論の方法で分析
第11回	言語ゲームとブランド・コミュニケーション	言語ゲーム論からみたコミュニケーション戦略
第12回	ブランド広告と物語	ブランド広告を効果的に拡散する物語
第13回	ブランドマネジメントの方法	ブランド表現、シンボルのマネジメント方法
第14回	ブランド広告と情報戦略	ブランドに関する情報発信戦略の概要と授業全体でのまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日常生活においてブランドとその広告表現について積極的な関心を持ち、情報収集を行なう。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本講義では、準備時間2時間、復習時間2時間、1回につき計4時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

青木貞茂『文化の力』(NTT出版、2008年)

【参考書】

津金澤聡廣・佐藤卓己編『広報・広告・プロパガンダ』(ミネルヴァ書房、2003年)
佐藤卓己・渡辺靖・柴内康文編『ソフト・パワーのメディア文化政策』(新曜社、2012年)
他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (70%)、課題レポート (30%)

【学生の意見等からの気づき】

理論についての理解を深めるため、より詳細な説明を行なうことを実施する。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは、水曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 広告論、ブランド論

<研究テーマ> 文化と広告、ブランド、マーケティング

<研究業績> 単著『文脈創造のマーケティング』(日本経済新聞社、1994年)、『文化の力』(NTT出版、2008年)

共著『記号化社会の消費』(ホルト・サウンダース・ジャパン、1985年)、『広告の記号論』(日経広告研究所、1987年)、『文化の消費が始まった』(日本経済新聞社、1989年)、『広報・広告・プロパガンダ』(ミネルヴァ書房、2003年)、『ソフト・パワーのメディア文化政策』(新曜社、2012年)

共訳書としてレイモア『隠された神話』(日経広告研究所、1985年)

【Outline (in English)】

In contemporary society, brand is an existence with great significance and value that cannot be ignored in our everyday life. We will clarify how the brands, created by advertisement information, influence us and how their significance and values are produced in light of structuralism, semiotics, and pragmatics.

In today's society, brands are entities of such great significance and value that they cannot be ignored in our daily lives. Using methods such as structuralism and semiotics, the aim of this course is to be able to analyze and understand the structure and meaning of advertising information, what creates a brand, and how it works and influences us. Students will take an active interest in, and gather information about, brands and their advertising communication in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard duration of this course is two hours of preparation and two hours of review, for a total of four hours per session. Evaluation is based on ordinary points (70%) and assignment reports (30%).

SOC500E1 - 2208 (社会学 / Sociology 500)

メディア特殊研究 4 (知的財産権法)

白田 秀彰

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

知的財産権法の入門講義である。
情報社会における財産として重要性を飛躍的に増した知的財産権法について、まず特許・商標・意匠および著作権といった全領域を概観しそれぞれの役割を理解したあと、文科系学生にとってもっとも身近で重要な著作権法について具体的に検討する。

【到達目標】

知的財産権制度全体の構造を理解し、とくに著作権について具体的かつ適切な取扱いができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

プレゼンテーション資料を用いながら講義する。課題解決型学習にも取り組みたい。

この講義はオンラインで行う。受講生はZoomを用いて講義に参加できるようネットワーク環境を整える必要がある。講義に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。提出された課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

Google Classroom のクラスコードは 3xiwrmz7 である。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要および受講上の留意点。
2	創作概念	知的財産権の中核概念である「創作・発明」について検討する。
3	模倣概念	「創作・発明」と対になる概念である「模倣」について検討する。
4	権利と契約	知的財産権の保護に関して、法律の基本的な概念について説明する。
5	特許	特許・実用新案制度について解説する。
6	商標	商標制度について解説する。
7	意匠	意匠制度について解説する。
8	著作権・著作物	著作権の対象となる著作物について解説する。
9	著作権・派生著作物	二次的著作物、編集著作物等の派生的な著作物について解説する。
10	著作権・著作者	著作権の主体となる著作者について解説する。また、著作者人格権について解説する。
11	著作権・著作権の制限	著作権が制限される場合について解説する。
12	著作権・隣接権	メディア産業にかかわる隣接権について解説する。
13	著作権・特殊な規定	美術、音楽、レコード、映画、放送といった業界の特殊な事情を反映した規定をまとめて解説する。
14	事例検討	具体的な事例をいくつか取り上げながら、理解を深める。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業中に指定された動画・参考文献・関連文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、各セクションごとに適宜課小論文の合算点によって行う (100%)。すなわち、各小論文を10段階評価し、期末にその小論文への評価を合算する。続いて最高得点をとった学生の素点を100点と換算し、以下全員の素点を換算する。

指示がない限り人工知能等により生成した文章を用いてはならない。生成文を使用した答案については0点として処理する。

また、論文試験や小論文等において剽窃(コピペ)を確認した場合は、不正行為として教授会に報告し処分されることになるので注意するよう。その期の単位をすべて失い留年が確定することになる。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力したい。

【学生が準備すべき機器他】

講義に関する連絡は、すべて Google Classroom 上で行う。

受講生は、下記の URL に必ず登録しておく必要がある。

<https://classroom.google.com/c/ODM3MTI0NTQ3NDYx?cjc=3xiwrmz7>

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/103/0010211/profile.html>

【Outline (in English)】

This is an introductory lecture on intellectual property law.

First, we will overview all areas of intellectual property law, such as patents, trademarks, designs, and copyrights, to understand their respective roles, and then specifically examine copyright law, which is the most familiar and important for liberal arts students.

SOC500E1 - 0302 (社会学 / Sociology 500)

学際研究3 (新しいメディアの哲学)

李 舜志

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、コンピューターとインターネット登場以降のメディアについて、その哲学的・政治的含意について考察することを目的とする。

【到達目標】

本授業の到達目標は、最新のメディア哲学の教科書的な理解を把握することと、そこから自らの研究に即した考察を展開することである。最新のメディアやテクノロジーをただ受容するだけでなく、それらを批判的に検討するために、メディアについての歴史的・哲学的知見を学習することも重要となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

文献の読解と履修者による発表、議論をメインに進めていく。時折、履修者自身の研究発表を交えて、本授業のテーマがどのように捉え返されるのかを確認する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容と進め方、評価について説明する。
第2回	レフ・マノヴィッチ『ニューメディアの言語』①	『ニューメディアの言語』のイントロダクションについて発表し、議論する。
第3回	レフ・マノヴィッチ『ニューメディアの言語』②	『ニューメディアの言語』の第一章の前半について発表し、議論する。
第4回	レフ・マノヴィッチ『ニューメディアの言語』③	『ニューメディアの言語』の第一章の後半について発表し、議論する。
第5回	レフ・マノヴィッチ『ニューメディアの言語』④	『ニューメディアの言語』の第二章の前半について発表し、議論する。
第6回	レフ・マノヴィッチ『ニューメディアの言語』⑤	『ニューメディアの言語』の第二章の後半について発表し、議論する。
第7回	研究発表①	履修者自身の研究の進捗状況を発表し、議論する。
第8回	研究発表②	履修者自身の研究の進捗状況を発表し、議論する。
第9回	レフ・マノヴィッチ『ニューメディアの言語』⑥	『ニューメディアの言語』の第三章の前半について発表し、議論する。
第10回	レフ・マノヴィッチ『ニューメディアの言語』⑦	『ニューメディアの言語』の第三章の中盤について発表し、議論する。
第11回	レフ・マノヴィッチ『ニューメディアの言語』⑧	『ニューメディアの言語』の第三章の後半について発表し、議論する。
第12回	研究発表③	履修者自身の研究の進捗状況を発表し、議論する。
第13回	研究発表④	履修者自身の研究の進捗状況を発表し、議論する。
第14回	まとめ	これまでの授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

ニューメディアの言語：デジタル時代のアート、デザイン、映画 / レフ・マノヴィッチ著；堀潤之訳(ちくま学芸文庫；[マ51-1])

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

分担報告と討論における達成度で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

技術哲学、教育学

<研究テーマ>

技術が人間と社会に与える影響

<主要研究業績>

『バルナール・スティグレルの哲学』法政大学出版局

『テクノ専制とコモンへの道』集英社

【Outline (in English)】

This course aims to examine the philosophical and political implications of media since the advent of computers and the Internet.

The learning objectives for this course are to grasp a textbook-level understanding of the latest media philosophy and to develop your own research-oriented analysis based on that understanding. It is also important to learn historical and philosophical insights about media, not merely to accept the latest media and technology, but to critically examine them.

Grading Criteria:

Evaluation will be based on the level of achievement in assigned reports and discussions.

SOC500E1 - 0303 (社会学 / Sociology 500)

学際研究 4 (投票行動と政治コミュニケーション)

大森 翔子

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、政治コミュニケーションが有権者の意識・態度形成にどのように影響し、最終的に投票行動という帰結に至るのか、その一連のプロセスを理論的・実証的に検討する。
具体的には、メディア研究、政治心理学、選挙研究などの分野で蓄積されてきた学術論文を講読し、政治情報の受容・解釈・評価が投票選択に結びつくメカニズムを理解することを目的とする。加えて、理論と計量分析との対応関係を重視し、抽象的な理論枠組みがどのようにデータ分析によって検証されるのかを、受講者自身の分析を通じて考察する。

【到達目標】

1. 投票行動研究および政治コミュニケーション研究における主要理論を体系的に理解し、相互の関係性を説明できるようになる。
2. 理論的仮説と計量分析の設計(変数化・モデル化・解釈)との対応関係を論理的に説明できるようになる。
3. 既存研究や自身の分析結果を批判的に検討し、理論的含意と限界を指摘できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は、2週1セットを基本単位として進行する。

第1週(理論)

理論的枠組み(例：メディア効果、各種政治意識等)に関連する学術論文を中心に講読し、その前提、概念、構造等を確認する。担当者による要約報告をもとに、理論の射程や限界についてディスカッションを行う。

第2週(実証)

第1週で扱った理論に関連する計量分析を行った結果を受講者が持ち寄り、分析結果にもとづいたディスカッションを行う。分析は多変量解析を前提とし、モデル設定、推定結果の解釈、理論との整合性や乖離について検討する。

なお、本授業では分析手法そのものの解説は行わない。受講者は、回帰分析等の基本的な多変量解析を自ら実行できることを前提とする。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、課題の実施方法などについて説明する。
第2回	政治的社会化(1)	政治的社会化理論について、主要仮説とその理論的前提を学術論文にもとづいて整理・検討する。
第3回	政治的社会化(2)	政治的社会化に関する計量分析結果を受講者が持ち寄り、理論的予測と分析設計・結果の対応関係について討論する。
第4回	マスメディア(1)	マスメディア研究の主要理論を整理し、投票行動との関係を検討する。

第5回 マスメディア(2)

第6回 インターネットメディア(1)

第7回 インターネットメディア(2)

第8回 イデオロギー(1)

第9回 イデオロギー(2)

第10回 政治的分極化(1)

第11回 政治的分極化(2)

第12回 業績評価(1)

第13回 業績評価(2)

第14回 まとめ

マスメディア接触と政治意識・投票行動に関する多変量分析をもとに、効果の大きさや因果解釈の妥当性について討論する。
インターネットメディアの特性を踏まえ、選択的接触、情報環境の変化に関する理論を中心に検討する。

SNS利用やオンラインニュース接触に関する分析結果を共有し、理論との整合性について討論する。

イデオロギー概念、左右軸の構造、争点態度の一貫性に関する理論的議論を検討する。

様々なイデオロギー指標を用いた多変量分析をもとに、態度構造と投票行動の関係について討論する。

政治的分極化、特に感情的分極化に関する理論を整理し、政治コミュニケーションとの関係を検討する。

分極化指標を用いた分析結果を共有し、メディア接触や党派性との関連について理論的含意を討論する。

政権・政党・政治家の業績評価に関する理論を整理し、投票行動との関係を検討する。

業績評価に関連する変数を用いた計量分析結果をもとに、評価形成と投票先判断の関係について討論する。

本授業の全体をふりかえる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、3時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

善教将大(編)(2025)『政治意識研究の最前線』法律文化社。
授業で講読する各トピックの学術論文については、教員が事前に提供する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

提出課題の内容と報告(60%)、ディスカッションへの参加度(40%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

- ・本授業はオンライン(Zoom)で開講するため、各自、インターネット接続環境・オンライン参加が可能な機器を準備すること。
- ・また、事前課題で計量分析を行う必要があるため、分析が実行可能なPC等を各自用意すること。

【その他の重要事項】

- ・基本的な多変量解析を受講者自身で実行・解釈できること、ならびに英語による学術論文を講読できる基礎的読解力を有することを前提として授業を進行する。これらの内容について、本授業内での補習は行わない。
- ・社会調査法、計量分析系科目等を履修済み、または同等の知識・経験を有していることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

政治学

<研究テーマ>

政治コミュニケーション、政治行動論

<主要研究業績>

大森翔子(2023)『メディア変革期の政治コミュニケーション：ネット時代は何を変えるのか』勁草書房。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course examines how political communication shapes voters' attitudes and perceptions and how these processes lead to voting behavior.

Through close reading of key literature in political communication, political psychology, and electoral studies, students conduct and discuss quantitative empirical analyses to examine how theoretical frameworks can be tested.

(Learning Objectives)

By the end of this course, students will be able to:

1. Understand major theories of voting behavior and political communication and explain their relationships.
2. Explain the correspondence between theoretical hypotheses and quantitative research design.
3. Critically assess empirical findings and their theoretical implications.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to spend approximately three hours in total on preparation and review for each class session.

(Grading Criteria /Policy)

Grades will be based on:

1. Assignments and presentations: 60%
2. Participation in discussions: 40%

SOC500E1 - 0304 (社会学 / Sociology 500)

学際研究5 (子ども・若者政策の国際比較)

平塚 眞樹

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本に限らず多くの国々で、子ども・若者の育ちの社会環境・社会構造の変容が進行し、それに伴い、深刻な少子化、子どもの貧困、教育格差、若年世代の縁辺化など、様々な社会問題が発生している。この授業では、こうした状況下で、各国で取り組まれている子ども・若者に関わる政策を比較検討し、その共通性と違いが何を意味するか考える。

【到達目標】

各国で取り組まれている子ども・若者に関わる政策について資料に基づいて理解し、国際的に比較考察し、その上で、各国間の共通性と違いが何を意味するかについて、思考を掘り下げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義・報告・討論を組み合わせて行う。授業のテーマに即した図書、関連資料を紹介、提示した後に、受講生各々の関心に応じて選択した上で報告し、討議する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を紹介するとともに、取り上げる候補となる参考文献、資料について紹介、解説する。
第2回	文献・資料の紹介・相談	引き続き、参考文献、資料の紹介、解説を行った上で、取り上げる文献・資料・分担を相談、決定する。
第3回	研究関心の共有・交流①	受講生並びに授業者の研究関心を交流し、共有する。
第4回	研究関心の共有・交流②	受講生並びに授業者の研究関心を交流し、共有する。
第5回	文献の報告、討議①	関連文献・資料を報告し、討議する
第6回	文献の報告、討議②	関連文献・資料を報告し、討議する
第7回	文献の報告、討議③	関連文献・資料を報告し、討議する
第8回	文献の報告、討議④	関連文献・資料を報告し、討議する
第9回	文献の報告、討議⑤	関連文献・資料を報告し、討議する
第10回	子ども・若者政策の国際比較①	国別報告をもとに、共通性と違い、その意味について討議する
第11回	子ども・若者政策の国際比較②	国別報告をもとに、共通性と違い、その意味について討議する
第12回	子ども・若者政策の国際比較③	国別報告をもとに、共通性と違い、その意味について討議する
第13回	子ども・若者政策の国際比較④	国別報告をもとに、共通性と違い、その意味について討議する
第14回	総括	これまでの報告、討議内容を整理し、総括討論を行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

初回の授業時に紹介、相談する。

【参考書】

・横井敏郎編 (2023) 『教育機会保障の国際比較』 勁草書房
 ・Youth Wiki: Europe's Encyclopedia of National Youth Policies
<https://national-policies.eacea.ec.europa.eu/youthwiki>

【成績評価の方法と基準】

授業時の報告 (60点) と討議への参加 (40点) で評価。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業時の院生の報告、発言から、その後の授業展開や資料提供の視点を得ている。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン開講につき、パソコンとオンライン接続できる環境が必要。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

教育学

<研究テーマ>

若年移行期の人間形成、ユースワーク

<主要研究業績>

平塚眞樹編『若者支援としてのユースワーク』大月書店、2023年

Hiratsuka, M., Hara, M., Minamide, K., Nakatsuka, F., Oka, S., Otsu, E., &Yokoe, M. (2024). How can the Values and Ethics of Youth Work be Shared among Practitioners and with the Society? - A Challenge for the 'Story Practice' in Japan. *Ethics and Social Welfare*, 18(2), pp.211 - 222. <https://doi.org/10.1080/17496535.2024.2335384>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Not only in Japan but across many nations, the social environment and structures surrounding the development of children and young people are changing. This shift has led to various social issues, including a severe decline in birth rates, child poverty, educational inequality, and the marginalisation of younger generations. This course will examine policies targeting children and young people being implemented in different countries under these circumstances, comparing and contrasting them to consider what their commonalities and differences suggest.

(Learning Objectives)

Understand the policies concerning children and young people being implemented in various countries based on reference materials, compare and examine them internationally, and then explore the significance of the commonalities and differences between nations.

(Learning activities outside of classroom)

The standard preparation and revision time for this course is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Students will be assessed on their in-class presentations (60 points) and participation in discussions (40 points).

SOC500E1 - 0305 (社会学 / Sociology 500)

社会科学研究法 1

大崎 雄二

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原則として日本国外の大学を卒業した日本語を第一言語としない外国人留学生を対象とします。

社会科学、社会学の基礎概念を再確認しながら、修士課程における学びの基軸、必要不可欠なアカデミック・リテラシーを具体的に確認し、習熟していきます。

【到達目標】

情報・文献検索の方法、データ分析の基本、小論文作成の方法、プレゼンテーションの方法等を確認し、修士課程の学生に相応しい情報の収集と分析、再構築、発信が支障なくできるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

学生参加型のインタラクティブな演習の形態とします。

教員からの問題提起と課題に対し、学生が質問、回答しながらより深い理解と習熟へと進むことができるよう授業を構成します。課題等に対する講評は授業内でコメントするか、個別に伝えます。

授業計画は、授業の展開によって若干の変更が生じる可能性もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	アイス・ブレイキング	役割分担決定等
2	情報の整理と要約 (1)	論文の要約 ① キーワード、キーワード、フレーズ
3	情報の整理と要約 (2)	論文の要約 ② 要約のポイント
4	プレゼンテーション	レジュメ作成のポイント ① 形式 (1)
5	プレゼンテーション	レジュメ作成のポイント ② 内容 (2)
6	プレゼンテーション	スライド作成のポイント (3)
7	プレゼンテーション	効果的な発表、相互批評・検討 (4)
8	情報、文献の検索と収集 (1)	データベースの活用
9	情報、文献の検索と収集 (2)	付加情報と脚注
10	情報、文献の検索と収集 (3)	関連文献検索、参考文献一覧作成
11	データ分析の基本 (1)	データ収集、処理の基礎
12	データ分析の基本 (2)	データ分析の基礎
13	小論文の作成 (1)	構想の発表と議論 ① 発表
14	小論文の作成 (2)	構想の発表と議論 ② 議論と修正

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習、復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談してから決めます。

【参考書】

授業内でテーマごとに複数紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

参加35%＋課題65%で評価したいと考えています。

【学生の意見等からの気づき】

よりきめ細かい個別対応を進めるとともに、さらに積極的な議論ができる場づくりに努力します。積極的な提案や意見は常に大歓迎。従来どおり「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時間としていきます。

【学生が準備すべき機器他】

パーソナルコンピュータなどwebに接続できる電子機器等

【その他の重要事項】

大学の自称「学習支援システム」WebClassは、とても使いものにならない劣悪な「学習支援『できない』シロモノ」でしかないので、最初の連絡以外は使いません。連絡や課題の提出等は、すべて別の有用なLMS（学習管理システム）を使用しますので、必ず登録、活用してください。

【担当教員の専門分野等】

現代中国（東アジア）地域研究

国民統合、民族政策

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001469/profile.html>

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of social sciences and sociology. It also enhances the development of foreign students' skill in making literal and oral presentation and self-regulated learning. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: term-end report (60%) and in-class contribution (40%).

SOC500E1 - 0307 (社会学 / Sociology 500)

外国語講読1 (英語)

鈴木 宗徳

備考(履修条件等): 学部「外語講読(メディア社会学) 3 A」と合同

その他属性:

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

未邦訳の学術的な英文テキストを講読し、アカデミックな英文の読解に慣れる。

【到達目標】

英語の学術的文献を正確に理解する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

毎週2〜3ページずつテキスト講読を進めるが、受講者は必ず全訳を準備して授業に臨むこと。授業では一文ずつ訳読しながら理解を深めてゆき、文の構造や文脈について解説を加える。AIの発達によって外国語の文章の大意を把握することは容易になったが、機械翻訳では到達できない背景を含めた正確な理解を目指す。

テキストは『データ・ポリティクス——世界、主体、権利』という学術書で、監視社会論で著名なデイヴィッド・ライアンが書いた「監視資本主義、監視文化、データ・ポリティクス」という章を読む。ズボフの「監視資本主義」論とライアン自身の監視文化論とを比較し、接続しようという内容である。

授業内容やテストについての履修者の質問には、授業内やメールで迅速に対応する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	テキストの説明
第2回	テキスト講読(1)	訳読と内容の検討
第3回	テキスト講読(2)	訳読と内容の検討
第4回	テキスト講読(3)	訳読と内容の検討
第5回	テキスト講読(4)	訳読と内容の検討
第6回	テキスト講読(5)	訳読と内容の検討
第7回	テキスト講読(6)	訳読と内容の検討
第8回	中間テスト	内容の理解度を測る
第9回	テキスト講読(7)	訳読と内容の検討
第10回	テキスト講読(8)	訳読と内容の検討
第11回	テキスト講読(9)	訳読と内容の検討
第12回	テキスト講読(10)	訳読と内容の検討
第13回	テキスト講読(11)	訳読と内容の検討
第14回	テキスト講読(12)	訳読と内容の検討

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回必ず予習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

Data Politics: Worlds, Subjects, Rights, Edited by Didier Bigo, Engin Isin, and Evelyn Ruppert, Routledge, 2019 より、第4章の、Surveillance Capitalism, Surveillance Culture and Data Politics, by David Lyon を読む。

※テキストは学習支援システムにアップロードしておくので、事前に1〜2段落読んで難易度を確認しておくこと。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間テストの成績(50%)と期末テストの成績(50%)。ただし、2回欠席すごとに成績評価を一段階ずつ下げる(S→A+, A+→A, A→A-…)。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

学習支援システムによる連絡に気を付けること。質問は担当教員にメールで連絡すること。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞社会学理論

＜研究テーマ＞現代における批判的社会理論の課題

＜主要研究業績＞

『危機に対峙する思考』(共編著、梓出版社、2016)

『個人化するリスクと社会——ベック理論と現代日本』(編著、勁草書房、2015)

『私』をひらく社会学——若者のための社会学入門』(共著、大月書店、2014)

『リスク化する日本社会——ウルリッヒ・ベックとの対話』(共編、岩波書店、2011)

【Outline (in English)】

In this course, students will practice reading academic English texts. Each week, two to three pages from the text will be read, and students must come to class with a full translation of the text. In class, students will translate one sentence at a time to deepen their understanding and to explain sentence structure and context.

SOC500E1 - 0308 (社会学 / Sociology 500)

外国語講読2 (英語)

馬場 智一

備考 (履修条件等): 学部「外語講読 (メディア社会学) 3 B」と合同

その他属性:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ケイパビリティアプローチに関連する基礎的文献を英語原文で読み、地球規模の問題に関わる社会学の理解を深めます。原文の訳読を通じて、英語文献を情報源として使えるようになることを目的とします。

【到達目標】

英語の社会学文献を辞書を引いて自分で読み、理解できる
正確な文法理解に基づいた上で、原文を意識できる
授業で学んだケイパビリティアプローチの基礎理論を説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

テキストをあらかじめ配布する。授業ではこのテキストを輪読する。輪読は出席者が順番に一文ずつ音読し、日本語に翻訳する (直訳した上で意訳する)。その後、訳した文をわかりやすく言い換える (パラフレーズする)。その後教員が適宜解説を加える。ある程度読み終えたら、簡単な内容要約の小テストを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	資料の配布、ケイパビリティアプローチについて
第2回	文献訳読 (1)と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 後半
第3回	文献訳読 (2)と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 後半
第4回	文献訳読 (3)と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 後半
第5回	文献訳読 (4)と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 後半
第6回	文献訳読 (5)と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 後半
第7回	文献訳読 (6)と小テスト (1)	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 後半
第8回	文献訳読 (7)と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 後半
第9回	文献訳読 (8)と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 後半
第10回	文献訳読 (9)と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 後半
第11回	文献訳読 (10)と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 後半
第12回	文献訳読 (11)と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 後半

第13回	文献訳読 (12)と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 後半
第14回	小テスト (2)と振り返り	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 後半

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストは指定された箇所をあらかじめ辞書を引いて読み、文法構造を理解した上で、直訳で翻訳できるようにしてきてください。授業で翻訳した箇所については、あらためてわからない用語を専門の事典で調べるなどして理解に努めてください。小テストに備えて、論文の趣旨をまとめておいてください。本科目の標準の授業時間外学習は準備と復習時間を合わせ4時間です。

【テキスト (教科書)】

Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution," in Oxford Studies in Ancient Philosophy: Supplementary Volume, (Oxford University Press, 1988).Martha Nussbaum, "Aristotelian Social Democracy," in Liberalism and the Good, R. Bruce Douglass, Gerald M. Mara &Henry S. Richardson eds. (Routledge, 1990). 輪読のテキストはその都度配布します。

【参考書】

各回の内容に応じて授業中に適宜参考書を紹介します。特にアリストテレス『ニコマコス倫理学』『政治学』マルクス『経済学・哲学草稿』。(岩波文庫)の特定の箇所を適宜参照します。文献の訳読 (70%)、小テスト (30%)

【成績評価の方法と基準】

文献の訳読 (70%)、小テスト (30%)

【学生の意見等からの気づき】

英語で書かれた哲学論文を読む機会はあまりない受講者がほとんどで難しく感じると予想されるので、ゆっくり進みます。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞典を持っていない方は必ず準備して授業を履修してください。

【その他の重要事項】

ケイパビリティアプローチの哲学的基礎に関心があり、英語原文で基礎文献を読みたい方に履修を推奨します。春学期の「社会学研究科・社会学原典講読/社会学原典研究1」から継続して同じ論文を読んでいます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>哲学、倫理学、思想史、哲学プラクティス

<研究テーマ> 20世紀独仏哲学、尊厳概念の歴史

<主要研究業績> 『倫理の他者』(勁草書房,2012)、『尊厳と生存』(共著, 法政大学出版局, 2022) 『『存在の彼方へ』を解説する』(編著, 法政大学出版局, 2025)

【Outline (in English)】

【Course Outline】 In this course, students read foundational texts related to the Capability Approach in their original English and deepen their understanding of social philosophy as it addresses global issues. Through close reading and translation of the original texts, the course aims to develop students' ability to use English-language philosophical literature as reliable academic sources. Emphasis is placed on careful grammatical analysis and accurate interpretation in order to grasp both the arguments and the conceptual framework of the Capability Approach.

【Learning Objectives】 By the end of this course, students will be able to:Read and understand English-language texts in social philosophy using dictionaries and reference materials.Translate philosophical texts accurately based on a correct understanding of grammatical structure, producing appropriate interpretive translations rather than word-for-word renderings alone.Explain the basic theoretical framework of the Capability Approach introduced in the course.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to prepare for each class by reading the assigned sections of the text in advance, using dictionaries to analyze vocabulary and grammatical structure, and preparing a literal translation of the passages. After class, students should review the translated sections by researching unfamiliar terms in specialized dictionaries or encyclopedias and consolidating their understanding of the text. In preparation for mid and final term exams, students should summarize the main arguments of the assigned readings.The standard amount of learning activities outside the classroom for this course is four hours per week, including preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】 Translation and close reading of assigned texts: 70% mid and final term exam: 30%

SOC500E1 - 0307 (社会学 / Sociology 500)

外国語講読 1 (仏語)

黒川 彩子

備考(履修条件等): 学部「フランス語3A (講読)・上級B1」と合同
その他属性:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会の諸問題を取りあげたテキストを読むことで、読解力や文法力を高めるだけでなく、SDG s、ジェンダー、歴史などフランスの現代社会のありようについて考え、表現する力も身に付けます。各課で違うテーマを扱います。フランスの社会が問題となりますが、それを中心に日本についても考えることになります。

【到達目標】

・辞書を引き、授業内の教員の説明を通して、一般的なフランス語で書かれたある程度の長さの文章を読み、理解できるレベルを目指します。
・イディオムや動詞、多義語などの幅を広げ、みずからフランス語で表現するうえで必要とされる全般的な知識を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・毎回、教員が指定したテキストを予習し、構文や時制などに注意して、全員で確認します。難しいと思われる箇所、文法などは適宜補っていきますので、安心して臨んでください。
・辞書を必ず持参してください。
・授業のはじめに、前回の内容に対して示された質問や意見を取り上げ、全体に対してフィードバックを実施します。
・授業計画は、学期中の授業の展開、また学生の興味関心によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入授業	授業の構成や進め方、教科書の紹介後、1課「何も無駄にしない」の読解
第2回	1.Ne rien perdre	1課「何も無駄にしない」(フレンチ・トーストを通して考えるフードロス問題) 文法の復習、長文読解
第3回	1.Ne rien perdre	1課「何も無駄にしない」の長文読解(続き)
第4回	2.S'habiller	2課「服を着る」(エシカルファッションを通して考える環境問題)の文法の復習、長文読解
第5回	2.S'habiller	2課「服を着る」の長文読解(続き)
第6回	3.Restaurer	3課「修復する」(文化財の保護・保存について)の文法の確認、練習問題、長文読解
第7回	3.Restaurer	3課「修復する」の長文読解(続き)
第8回	4.Être vu(e)	4課「視られる」(アニメの中で描かれるジェンダー)の文法の確認、練習問題、長文読解
第9回	4.Être vu(e)	4課「視られる」の長文読解(続き)
第10回	5. Voir le monde autrement	5課「別の視点から世界を見る」(フランスのドキュメンタリー映画について)の文法の確認、長文読解
第11回	5. Voir le monde autrement	5課「別の視点から世界を見る」の長文読解(続き)
第12回	6.S'accepter tel(le) qu'on est	6課「ありのままの自分を受け入れる」(外見至上主義と超高齢化社会について)の文法の確認、練習問題、長文読解
第13回	6.S'accepter tel(le) qu'on est	6課「ありのままの自分を受け入れる」の長文読解(続き)
第14回	まとめと解説	学期のまとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

福田美雪、ジョルジュ・ヴェスィエール『T'en penses quoi? これ、どう思う? 語りあうための中級フランス語読本』朝日出版社、2023年、定価2420円(本体2200円+税10%)

【参考書】

・仏和辞書(プチ・ロワイヤルなど用例が載っている辞書)。電子辞書でも可。紙ポケット版は不向き。
・その他、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

宿題となる予習も含めた授業への参加度を重視し、平常点(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

・テキストは会話、エッセイ、インタビューなど多岐にわたり、様々な文体を読むことができます。また各課それぞれフランスの社会における問題を取り上げるので、日本と比較しながら視野を広げることができるでしょう。
・講読ですが、音読も行います。発音の確認も丁寧に行います。
・授業内容はもちろんのこと、フランス語全般、仏検等の質問も随時受け付けます。(メールも可。)

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/26/0002582/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students improve their French reading skills and reach higher levels. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. The goal of this course is to obtain the necessary skills and knowledge of this language needed to achieve a better performance in their university studies. Grading will be based on in-class contribution (100%).

SOC500E1 - 0308 (社会学 / Sociology 500)

外国語講読2 (仏語)

黒川 彩子

備考(履修条件等): 学部「フランス語4A(講読)・上級B4」と合同
その他属性:

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

現代社会の諸問題をとりあげたテキストを読むことで、読解力や文法力を高めるだけでなく、SDG s、ジェンダー、歴史などフランスの現代社会のありようについて考え、表現する力も身に付けます。各課で違うテーマを扱います。フランスの社会が問題となりますが、それを中心に日本についても考えることとなります。

【到達目標】

・辞書を引き、授業内の教員の説明を通して、一般的なフランス語で書かれたある程度の長さの文章を読み、理解できるレベルを目指します。
・イディオムや動詞、多義語などの幅を広げ、みずからフランス語で表現するうえで必要とされる全般的な知識を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義/Lecture

【授業の進め方と方法】

・毎回、教員が指定したテキストを予習し、構文や時制などに注意して、全員で確認します。(難しいと思われるところは教員があらかじめ説明するので、安心して臨んでください。)辞書を必ず持参すること。
・授業のはじめに、前回の内容に対して示された質問や意見を取り上げ、全体に対してフィードバックを実施します。
・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	7. Écouter les sons	7課「音を聞く」(音が与える正の力と負の力について)の文法確認、練習問題、長文読解
第2回	7. Écouter les sons	7課「音を聞く」の長文読解(続き)
第3回	8. Chanter	8課「歌う」フランス語の詩を読む。アルチュール・ランボー「谷間に眠る男」、ランボーについて
第4回	8. Chanter	8課「歌う」の文法の確認、練習問題、読解
第5回	8. Chanter	8課「歌う」アルチュール・ランボー「谷間に眠る男」を読む 反戦の歌と検閲について
第6回	9. S'entendre avec les autres	9課「他者とわかりあう」(現代社会の多様性について)の文法確認、練習問題、長文読解
第7回	9. S'entendre avec les autres	9課「他者とわかりあう」の長文読解(続き)
第8回	10. Vivre à son rythme	10課「自分のリズムで生きる」(日仏の時間感覚の違いについて)の文法確認、練習問題、長文読解
第9回	10. Vivre à son rythme	10課「自分のリズムで生きる」の続き、長文読解
第10回	11. Travailler	11課「働く」(フランスの働き方について)の文法確認、練習問題、長文読解
第11回	11. Travailler	11課「働く」の続き、長文読解
第12回	12. Se connecter	12課「つながる」(SNSと日仏の社会について)の文法確認、練習問題、長文読解
第13回	12. Se connecter	12課「つながる」の続き、長文読解
第14回	まとめと解説	学期のまとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

福田美雪、ジョルジュ・ヴェスィエール『Ten penses quoi? これ、どう思う? 語りあうための中級フランス語読本』朝日出版社、2023年、定価2420円(本体2200円+税10%)

【参考書】

・仏和辞書(プチ・ロワイヤルなど用例が載っている辞書)。電子辞書でも可。紙ポケット版は不向き。
・その他、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

宿題となる予習も含めた授業への参加度を重視し、平常点(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

・テキストは会話、エッセイ、インタビューなど多岐にわたり、様々な文体を読むことができます。また各課それぞれフランスの社会における問題を取り上げるので、日本と比較しながら視野を広げることができるでしょう。
・講読ですが、音読も行います。発音の確認も丁寧に行います。
・授業内容はもちろんのこと、フランス語全般、仏検等の質問も随時受け付けます。(メールも可。)

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/26/0002582/profile.html>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students improve their French reading skills and reach higher levels. Before/after each class meeting, they are required to spend two hours to understand the course content. The goal of this course is to obtain the necessary skills and knowledge of this language needed to achieve a better performance in their university studies. Grading will be based on in-class contribution (100%).

SOC500E1 - 0307 (社会学 / Sociology 500)

外国語講読1 (独語)

濱中 春

備考(履修条件等): 学部「ドイツ語3A(講読)・上級B1」と合同
 その他属性:

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

DACH、つまりドイツ(D)、オーストリア(A)、スイス(CH)の社会や文化、生活にかんするアクチュアルなトピックをとりあげた文章を読むことを通して、ドイツ語の読解力を向上させます。
 また、日本のニュースではなかなか知ることのできない現代ドイツ語圏の実情について視野を広げます。

【到達目標】

- ・一般的なドイツ語で書かれたある程度まとまった長さの文章を、辞書を用いて正確に読むことができる。
- ・ドイツ語の構文を正確に把握することができ、文法知識と語彙力をレベルアップさせる。
- ・現代ドイツ語圏の実情について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、事前に決めた範囲のテキストを予習してきて、構文や成句的表現に注意しながら訳読します。

また、関連する文法事項や語彙にかんする練習問題にも取り組みます。
 その他、テキストに関連したテーマについて調べたり、意見交換したりする時間も設けます。

質問や予習の内容には授業中にフィードバックします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方
2	Kapitel 01: Oma auf Zeit - Eine Unterstützung für moderne Familien	「祖父母代行サービス-現代の家族のための支援」 講読
3	Kapitel 01	講読
4	Kapitel 01	練習問題
5	Kapitel 02: Ein Dorf verschwindet - Die Katastrophe von Blatten	「村が一つ消えた-ブラッテン村の氷河崩落」 講読
6	Kapitel 02	講読、練習問題
7	Kapitel 03: Wohnungsnot in Deutschland	「ドイツの住宅不足」 講読
8	Kapitel 03	講読
9	Kapitel 03	練習問題
10	Kapitel 04: Eine ganz kleine Nachtmusik - Die Entdeckung eines bisher unbekannten Mozart-Werkes	「これまで知られていなかったモーツァルトの作品の発見」 講読
11	Kapitel 04	講読、練習問題
12	Kapitel 05: Weniger Bier, mehr Gesundheit? - Alkoholkonsum in Deutschland	「ドイツにおけるアルコール消費の変化」 講読
13	Kapitel 05	講読
14	Kapitel 05	練習問題

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

Diana Beier-Taguchi / 田中雅敏 『DACH・トピックス10 2026年度版』(朝日出版社)

【参考書】

独和辞典を持参してください。

その他の参考書は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(予習状況・授業への参加状況) 100%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや目的意識に柔軟に対応したい。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/hosei/detail.html?systemId=0df41cc035dca776&lang=ja>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve the reading comprehension in German by means of reading texts on various actual topics about the society, culture, and life of Germany, Austria, and Switzerland. Students will also broaden their perspective on the actual situations of contemporary German-speaking area.

Before each class meeting, students should check the vocabulary and syntax of the text and work on exercises. After the class you are expected to review the text. Your required study time is two hours for each class meeting.

Grading will be decided based on the quality of your preparation for the class and in-class contributions (100%).

SOC500E1 - 0308 (社会学 / Sociology 500)

外国語講義 2 (独語)

濱中 春

備考 (履修条件等) : 学部「ドイツ語 4A (講読)・上級 B4」と合同
その他属性 :

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

DACH、つまりドイツ (D)、オーストリア (A)、スイス (CH) の社会や文化、生活にかんするアクチュアルなトピックをとりあげた文章を読むことを通して、ドイツ語の読解力を向上させます。
また、日本のニュースではなかなか知ることのできない現代ドイツ語圏の実情について視野を広げます。

【到達目標】

- ・一般的なドイツ語で書かれたある程度まとまった長さの文章を、辞書を用いて正確に読むことができる。
- ・ドイツ語の構文を正確に把握することができ、文法知識と語彙力をレベルアップさせる。
- ・現代ドイツ語圏の実情について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、事前に決めた範囲のテキストを予習してきて、構文や成句的表現に注意しながら訳読します。
また、関連する文法事項や語彙にかんする練習問題にも取り組みます。
その他、テキストに関連したテーマについて調べたり、意見交換したりする時間も設けます。
質問や予習の内容には授業中にフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態 : 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方 春学期の復習
2	Kapitel 06 : Amoklauf in Graz - Österreich unter Schock	「グラーツでの銃乱射事件」 講読
3	Kapitel 06	講読
4	Kapitel 06	練習問題
5	Kapitel 07 : Handyverbot an Schulen - Ein Thema, viele Meinungen	「学校でのスマホ禁止」 講読
6	Kapitel 07	講読、練習問題
7	Kapitel 08 : DACH auf der Expo 2025	「EXPO 2025 における DACH」 講読
8	Kapitel 08	講読
9	Kapitel 08	練習問題
10	Kapitel 09 : Die Sorben - Eine Minderheit zwischen Tradition und Moderne	「ソルブ人 - 伝統と現代のはざまで揺れる少数民族」 講読
11	Kapitel 09	講読、練習問題
12	Kapitel 10 : Lichtblick im Alter - Hilfe, die von Herzen kommt	「高齢者の希望の光」 講読
13	Kapitel 10	講読
14	Kapitel 10	練習問題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Diana Beier-Taguchi / 田中雅敏 『DACH・トピックス 10 2026 年度版』 (朝日出版社)

【参考書】

独和辞典を持参してください。
その他の参考書は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (予習状況・授業への参加状況) 100 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや目的意識に柔軟に対応したい。

【担当教員の専門分野等】

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/hosei/detail.html?systemId=0df41cc035dca776&lang=ja>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve the reading comprehension in German by means of reading texts on various actual topics about the society, culture, and life of Germany, Austria, and Switzerland. Students will also broaden their perspective on the actual situations of contemporary German-speaking area.

Before each class meeting, students should check the vocabulary and syntax of the text and work on exercises. After the class you are expected to review the text. Your required study time is two hours for each class meeting.

Grading will be decided based on the quality of your preparation for the class and in-class contributions (100%).

SOC500E1 - 0307 (社会学 / Sociology 500)

外国語講読 1 (中国語)

大崎 雄二

備考 (履修条件等) : 学部「中国語 3A (講読)・上級 B1」と合同

その他属性 :

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代漢語 (中国語) で書かれた文章を正確に読み解く練習を繰り返し、読解力の向上をはかりながら、中国語圏の社会や文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

- (1) 辞書を引くことに慣れ、音や意味を「類推する力」をつける
- (2) 文成分の分析が正確にできる
- (3) 書きことは独自の表現や構造に慣れる
- (4) 自分の研究分野に関連する語彙や文書になじむ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主語、述語、修飾語、補語等の文成分や文の構造の分析をしながら文意を正確に理解する練習を重ねます。最初はローマ字 (ピンイン) つきのテキストを使います。

さまざまな問題のある「近代学校」システムの一斉授業ではなく、「寺子屋式」のオンデマンド方式の時間です。翻訳の講評は個別に詳細に、提出物はこまかくコメントをつけて返却します。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更をすることもあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態 : 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文成分の分析 (1)	ピンインつきの文 (1)
2	文成分の分析 (2)	ピンインつきの文 (2)
3	文成分の分析 (3)	ピンインつきの文 (3)
4	文成分の分析 (4)	ピンインつきの文 (4)
5	文成分の分析 (5)	ピンインなしの文 (1)
6	文成分の分析 (6)	ピンインなしの文 (2)
7	文成分の分析 (7)	ピンインなしの文 (3)
8	精読の基礎 (1)	辞書 / web の活用 (1)
9	精読の基礎 (2)	辞書 / web の活用 (2)
10	精読の基礎 (3)	辞書 / web の活用 (3)
11	精読の基礎 (4)	辞書 / web の活用 (4)
12	精読の基礎 (5)	辞書にない単語 (1)
13	精読の基礎 (6)	辞書にない単語 (2)
14	精読の基礎 (7)	辞書にない単語 (3)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教材は、学生の要望を聞いて、分野や内容を絞り、読解力に合わせて教員が提案して決めます。教材はプリントの形で配布し、LMS (学習管理システム) で情報を共有します。

2025 年度、教材として使ったのは、パンダ関連記事 (新図社、《中文図》、《中国新図周刊》)、2025 年中国大学入試現場レポート (新図社)、2024 年中国流行語 (《光明日図》、新図社) でした。

【参考書】

辞書や参考書などは、その都度具体的に紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

試験はおこなわず、毎回の積極的な参加と取り組みを 100 % として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「1 対多」ではなく「1 対 1」の集合体としての時間にしていきたいと考えています。個別の要望などは遠慮なく言ってください。

【学生が準備すべき機器他】

web に接続できる電子機器等

【その他の重要事項】

せっかく「初級」から積みあげてきた中国語、もう一踏ん張りして、研究や業務で実際に「使える中国語」にしていきたいと思います。

将来の留学や研究、業務に役立てるために読解力の向上に取り組みたい学生、現代漢語 (中国語) 文化圏の「現在進行形」の政治や経済、社会、文化に興味をもつ好奇心旺盛な学生は大歓迎です。

大学の自称「学習支援システム」WebClass は、とても使いものにならない劣悪な「学習支援『できない』シロモノ」でしかないので、最初の連絡以外は使いません。連絡や課題の提出等は、すべて別の有用な LMS (学習管理システム) を使用しますので、必ず登録、活用してください。

北京駐在記者 (特派員) として「(中国共産) 党の喉舌」である中華人民共和国のメディアの報道を読み解くことを業務としてきました。“党八股”や「書かれていないこと」=「『行間』を読む」スキルも含め、詳細に伝授します。

【担当教員の専門分野等】

現代中国 (東アジア) 地域研究

国民統合、民族政策

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001469/profile.html>

【Outline (in English)】

By repeatedly practicing accurately reading and interpreting texts written in modern Chinese, students will improve their reading comprehension while deepening their understanding of Chinese-speaking societies and cultures.

SOC500E1 - 0308 (社会学 / Sociology 500)

外国語講読2 (中国語)

大崎 雄二

備考 (履修条件等) : 学部「中国語4A (講読)・上級B4」と合同

その他属性 :

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代漢語 (中国語) で書かれた文章を正確に読み解く練習をさらに重ね、読解を通じて、中国語圏の社会や文化に対する理解をさらに深めていきます。

【到達目標】

「3A・5A」で伸ばした読解力を基礎にして、さまざまな文章の読解練習を続けます。

- (1) 長く難解な文の読解 (文成分、文の構造分析の徹底)
- (2) 辞書に載っていない新語や表現の解釈のための情報収集
- (3) 繁体字の文章の読解に挑戦する
- (4) 自分の研究分野に関連する語彙や文書に習熟する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

さまざまな文章の読解を通じ、慣用的な表現にも慣れ、「言語の翻訳」だけではなく、背景理解＝「文化や社会の翻訳」にまで踏み込み、さらに深く、包括的な理解を進めます。

さまざまな問題のある「近代学校」システムの一斉授業ではなく、「寺子屋式」のオンデマンド方式の時間です。翻訳の講評は個別に詳細に、提出物はこまかくコメントをつけて返却します。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更をすることもあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態 : 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	精読 (1)	新聞記事 (1)
2	精読 (2)	新聞記事 (2)
3	精読 (3)	新聞記事 (3)
4	精読 (4)	雑誌記事 (1)
5	精読 (5)	雑誌記事 (2)
6	精読 (6)	雑誌記事 (3)
7	精読 (7)	雑誌記事 (4)
8	多読 (1)	繁体字の文章 (1)
9	多読 (2)	繁体字の文章 (2)
10	多読 (3)	繁体字の文章 (3)
11	多読 (4)	繁体字の文章 (4)
12	速読 (1)	書籍 (1)
13	速読 (2)	書籍 (2)
14	速読 (3)	書籍 (3)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教材は、学生の要望を聞いて、分野や内容を絞り、読解力に合わせて教員が提案して決めます。教材はプリントの形で配布し、LMS (学習管理システム) で情報を共有します。

2025年度、教材として使ったのは、戦後80年関連記事 (新図社、《人民日報》)、「高市問題発言」関連 (中国人民共和国外交部、中華民国外交部、《人民日報》)、2025年中国流行語 (《半月刊》) でした。

【参考書】

辞書や参考書などは、その都度具体的に紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

試験はあらかじめ、毎回の積極的な参加と取り組みを100%として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時間にしていきたいと考えています。個別の要望などは遠慮なく言ってください。

【学生が準備すべき機器他】

webに接続できる電子機器等

【その他の重要事項】

辞書を丹念に引き、文成分をきちんと確認していくという地道な努力を重ねていくうちに、WEB上の記事や新聞などがだんだんとよくわかるようになり、自分でも驚くほどの力がついていることある日突然気が付くはずですよ。一日も早いその日の到来を楽しみに、一緒にコツコツと積みあげていきましょう。

大学の自称「学習支援システム」WebClassは、とても使いものにならない劣悪な「学習支援『できない』シロモノ」でしかないので、最初の連絡以外は使いません。連絡や課題の提出等は、すべて別の有用なLMS (学習管理システム) を使用しますので、必ず登録、活用してください。

北京駐在記者 (特派員) として「(中国共産) 党の喉舌」である中華人民共和国のメディアの報道を読み解くことを業務としてきました。「党八股」や「書かれていないこと」＝「『行間』を読む」スキルも含め、詳細に伝授します。

【担当教員の専門分野等】

現代中国 (東アジア) 地域研究

国民統合、民族政策

<https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001469/profile.html>

【Outline (in English)】

Students will receive further practice in accurately reading and interpreting texts written in modern Chinese, and through reading comprehension, students will further deepen the understanding of Chinese-speaking societies and cultures.

SOC500E1 - 0309 (社会学 / Sociology 500)		
社会学原典講読		
馬場 智一		
備考(履修条件等): 博士後期課程「社会学原典研究1」と合同		
その他属性:		
【授業の概要と目的(何を学ぶか)】		
ケイパビリティアプローチに関連する基礎的文献を英語原文で読み、地球規模の問題に関わる社会哲学の理解を深めます。原文の訳読を通じて、英語文献を情報源として使えるようになることを目的とします。		
【到達目標】		
英語の社会哲学文献を辞書を引いて自分で読み、理解できる 正確な文法理解に基づいた上で、原文を意識できる 授業で学んだケイパビリティアプローチの基礎理論を説明できる		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】		
ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連		
【主な授業方法】		
S 演習/ゼミ /Seminar		
【授業の進め方と方法】		
テキストをあらかじめ配布する。授業ではこのテキストを輪読する。輪読は出席者が順番に一文ずつ音読し、日本語に翻訳する(直訳した上で意訳する)。その後、訳した文をわかりやすく言い換える(パラフレーズする)。その後教員が適宜解説を加える。ある程度読み終えたら、簡単な内容要約の小テストを行う。		
【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態: 対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	資料の配布、ケイパビリティアプローチについて
第2回	文献訳読(1)と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半
第3回	文献訳読(2)と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半
第4回	文献訳読(3)と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半
第5回	文献訳読(4)と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半
第6回	文献訳読(5)と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半
第7回	文献訳読(6)と小テスト(1)	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半
第8回	文献訳読(7)と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半
第9回	文献訳読(8)と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半
第10回	文献訳読(9)と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半
第11回	文献訳読(10)と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半
第12回	文献訳読(11)と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半

第13回	文献訳読(12)と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半
第14回	小テスト(2)と振り返り	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

テキストは指定された箇所をあらかじめ辞書を引いて読み、文法構造を理解した上で、直訳で翻訳できるようにしてきてください。授業で翻訳した箇所については、あらためてわからない用語を専門の事典で調べるなどして理解に努めてください。小テストに備えて、論文の趣旨をまとめておいてください。本科目の標準の授業時間外学習は準備と復習時間を合わせ4時間です。

【テキスト(教科書)】

Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution," in Oxford Studies in Ancient Philosophy: Supplementary Volume, (Oxford University Press, 1988). 輪読のテキストはその都度配布します。

【参考書】

各回の内容に応じて授業中に適宜参考書を紹介します。特にアリストテレス『ニコマコス倫理学』『政治学』マルクス『経済学・哲学草稿』、(岩波文庫)の特定の箇所を適宜参照します。

【成績評価の方法と基準】

文献の訳読(70%)、小テスト(30%)

【学生の意見等からの気づき】

英語で書かれた哲学論文を読む機会はあまりない受講者がほとんどで難しく感じると予想されるので、ゆっくり進みます。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞典を持っていない方は必ず準備して授業を履修してください。

【その他の重要事項】

ケイパビリティアプローチの哲学的基礎に関心があり、英語原文で基礎文献を読みたい方に履修を推奨します。秋学期に「外書購読(メディア社会学)3B / 社会学研究科・外国書講読2(英語)」で同じ論文を続けて読みます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 哲学、倫理学、思想史、哲学プラクティス

<研究テーマ> 20世紀独仏哲学、尊厳概念の歴史

<主要研究業績> 『倫理の他者』(勁草書房, 2012)、『尊厳と生存』(共著, 法政大学出版局, 2022) 『『存在の彼方へ』を解説する』(編著, 法政大学出版局, 2025)

【Outline (in English)】

【Course Outline】In this course, students read foundational texts related to the Capability Approach in their original English and deepen their understanding of social philosophy as it addresses global issues. Through close reading and translation of the original texts, the course aims to develop students' ability to use English-language philosophical literature as reliable academic sources. Emphasis is placed on careful grammatical analysis and accurate interpretation in order to grasp both the arguments and the conceptual framework of the Capability Approach.

【Learning Objectives】By the end of this course, students will be able to: Read and understand English-language texts in social philosophy using dictionaries and reference materials. Translate philosophical texts accurately based on a correct understanding of grammatical structure, producing appropriate interpretive translations rather than word-for-word renderings alone. Explain the basic theoretical framework of the Capability Approach introduced in the course.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to prepare for each class by reading the assigned sections of the text in advance, using dictionaries to analyze vocabulary and grammatical structure, and preparing a literal translation of the passages. After class, students should review the translated sections by researching unfamiliar terms in specialized dictionaries or encyclopedias and consolidating their understanding of the text. In preparation for mid and final term exams, students should summarize the main arguments of the assigned readings. The standard amount of learning activities outside the classroom for this course is four hours per week, including preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】 Translation and close reading of assigned texts: 70% mid and final term exam: 30%

SOC600E1 - 0102 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I A

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、マス・コミュニケーション論

<研究テーマ>ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析

<主要研究業績>『ギフト、再配達：テレビ・テキスト分析入門』せりか書房,2006年。藤田真文(共編著：丹羽美之)『メディアが震えた：テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会,2013年。藤田真文編『メディアの卒論：テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房,2016年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0102 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I A

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学

<研究テーマ>ケアや支援の相互行為的分析

<主要研究業績> 2023『知的障害・自閉の人たちと「かかわり」の社会学』（生活書院）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0102 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I A

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の基礎（1）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第2回	研究の基礎（2）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第3回	研究の基礎（3）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第4回	研究の基礎（4）	先行研究および資料／データ収集の方法、レジュメ／論文の作成方法
第5回	研究テーマの設定（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第6回	研究テーマの設定（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択
第7回	研究テーマの設定（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの比較と選択

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 理論社会学、文化社会学

<研究テーマ> 語りと記憶の社会学

<主要研究業績> 『不確かさの軌跡』（宮下・中脇との共著）ゆみる出版

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0103 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I B

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第2回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第3回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第4回	研究方法の習熟（4）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第5回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第6回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第7回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞メディア論、マス・コミュニケーション論
＜研究テーマ＞ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析
＜主要研究業績＞『ギフト、再配達：テレビ・テキスト分析入門』せりか書房,2006年。藤田真文(共編著：丹羽美之)『メディアが震えた：テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会,2013年。藤田真文編『メディアの卒論：テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房,2016年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0103 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I B

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第2回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第3回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第4回	研究方法の習熟（4）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第5回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第6回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第7回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学

<研究テーマ>ケアや支援の相互行為的分析

<主要研究業績> 2023『知的障害・自閉の人たちと「かかわり」の社会学』（生活書院）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0103 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 I B

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：修士1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文を完成させるために必要な研究方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究方法の習熟（1）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第2回	研究方法の習熟（2）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第3回	研究方法の習熟（3）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第4回	研究方法の習熟（4）	調査・研究方法の習熟、資料／データの収集と調査の実践
第5回	論文執筆とその検討（1）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第6回	論文執筆とその検討（2）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討
第7回	論文執筆とその検討（3）	問題設定、先行研究の紹介、仮説の提示、論文構成の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>理論社会学、文化社会学

<研究テーマ>記憶と語りの社会学

<主要研究業績>『不確かさの軌跡』宮下、中脇との共著、ゆみる出版

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to acquire the knowledge and skills necessary to complete a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0104 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡA

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認（1）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認（2）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認（3）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認（4）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善（1）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善（2）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善（3）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、マス・コミュニケーション論
<研究テーマ>ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析
<主要研究業績>『ギフト、再配達：テレビ・テキスト分析入門』せりか書房,2006年。藤田真文(共編著：丹羽美之)『メディアが震えた：テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会,2013年。藤田真文編『メディアの卒論：テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房,2016年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0104 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡA

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認（1）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認（2）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認（3）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認（4）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善（1）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善（2）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善（3）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学

<研究テーマ>ケアや支援の相互行為的分析

<主要研究業績> 2023『知的障害・自閉の人たちと「かかわり」の社会学』（生活書院）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0104 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡA

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認（1）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認（2）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認（3）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認（4）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善（1）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善（2）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善（3）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

教育学

<研究テーマ>

若年移行期の人間形成、ユースワーク

<主要研究業績>

平塚真樹編『若者支援としてのユースワーク』大月書店、2023年

Hiratsuka, M., Hara, M., Minamide, K., Nakatsuka, F., Oka, S., Otsu, E., & Yokoe, M. (2024). How can the Values and Ethics of Youth Work be Shared among Practitioners and with the Society? - A Challenge for the 'Story Practice' in Japan. *Ethics and Social Welfare*, 18(2), pp.211-222. <https://doi.org/10.1080/17496535.2024.2335384>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0104 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡA

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認（1）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認（2）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認（3）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認（4）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善（1）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善（2）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善（3）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞国際社会学、産業・労働社会学

＜研究テーマ＞産業再編成と労使関係、越境的な人の移動

＜主要研究業績＞『建設労働と移民－日米における産業再編成と技能』（名古屋大学出版会、2021年）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0104 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導ⅡA

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の遂行と進捗状況の確認（1）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第2回	研究の遂行と進捗状況の確認（2）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第3回	研究の遂行と進捗状況の確認（3）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第4回	研究の遂行と進捗状況の確認（4）	資料／データの収集と調査の実践、進捗に応じた計画の修正
第5回	研究発表による構想の改善（1）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第6回	研究発表による構想の改善（2）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善
第7回	研究発表による構想の改善（3）	研究発表および指導・批判を通じた論文構想の改善

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0105 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 II B

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究枠組みの確認と修正 (1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第2回	研究枠組みの確認と修正 (2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第3回	研究枠組みの確認と修正 (3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第4回	研究枠組みの確認と修正 (4)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第5回	論文執筆と改善指導 (1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第6回	論文執筆と改善指導 (2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第7回	論文執筆と改善指導 (3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、マス・コミュニケーション論

<研究テーマ>ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析

<主要研究業績>『ギフト、再配達: テレビ・テキスト分析入門』せりか書房, 2006年。藤田真文(共編著: 丹羽美之)『メディアが震えた: テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会, 2013年。藤田真文編『メディアの卒論: テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房, 2016年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0105 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 II B

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究枠組みの確認と修正 (1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第2回	研究枠組みの確認と修正 (2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第3回	研究枠組みの確認と修正 (3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第4回	研究枠組みの確認と修正 (4)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第5回	論文執筆と改善指導 (1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第6回	論文執筆と改善指導 (2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第7回	論文執筆と改善指導 (3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学

<研究テーマ>ケアや支援の相互行為的分析

<主要研究業績> 2023 『知的障害・自閉の人たちと「かかわり」の社会学』（生活書院）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0105 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 II B

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究枠組みの確認と修正 (1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第2回	研究枠組みの確認と修正 (2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第3回	研究枠組みの確認と修正 (3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第4回	研究枠組みの確認と修正 (4)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第5回	論文執筆と改善指導 (1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第6回	論文執筆と改善指導 (2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第7回	論文執筆と改善指導 (3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

教育学

<研究テーマ>

若年移行期の人間形成、ユースワーク

<主要研究業績>

平塚真樹編『若者支援としてのユースワーク』大月書店、2023年

Hiratsuka, M., Hara, M., Minamide, K., Nakatsuka, F., Oka, S., Otsu, E., & Yokoe, M. (2024). How can the Values and Ethics of Youth Work be Shared among Practitioners and with the Society? - A Challenge for the 'Story Practice' in Japan. *Ethics and Social Welfare*, 18(2), pp.211-222. <https://doi.org/10.1080/17496535.2024.2335384>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0105 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 II B

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究枠組みの確認と修正 (1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第2回	研究枠組みの確認と修正 (2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第3回	研究枠組みの確認と修正 (3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第4回	研究枠組みの確認と修正 (4)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第5回	論文執筆と改善指導 (1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第6回	論文執筆と改善指導 (2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第7回	論文執筆と改善指導 (3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際社会学、産業・労働社会学

<研究テーマ>産業再編成と労使関係、越境的な人の移動

<主要研究業績>『建設労働と移民—日米における産業再編成と技能』（名古屋大学出版会、2021年）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC600E1 - 0105 (社会学 / Sociology 600)

修士論文指導 II B

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：修士2年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆のための指導（修士課程2年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で修士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が修士論文執筆のための指導をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも修士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。隔週開講を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究枠組みの確認と修正(1)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第2回	研究枠組みの確認と修正(2)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第3回	研究枠組みの確認と修正(3)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第4回	研究枠組みの確認と修正(4)	論文構想の射程およびその学術的意義の検証
第5回	論文執筆と改善指導(1)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第6回	論文執筆と改善指導(2)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証
第7回	論文執筆と改善指導(3)	論文構成と文章表現の適切さ、論旨の説得力などの検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について、指導教員が基準を設けて評価する。評価の対象には総合演習での報告も含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞理論社会学、文化社会学

＜研究テーマ＞記憶と語りの社会学

＜主要研究業績＞『不確かさの軌跡』宮下、中脇との共著、ゆみる出版

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a master thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a master thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0100 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導 I A

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：博士後期課程1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出し、併行して、修士論文の成果を中心とした査読付き論文の執筆を開始する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、マス・コミュニケーション論
<研究テーマ>ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析
<主要研究業績>『ギフト、再配達: テレビ・テキスト分析入門』せりか書房,2006年。藤田真文(共編著: 丹羽美之)『メディアが震えた: テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会,2013年。藤田真文編『メディアの卒論: テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房,2016年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0100 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導 I A

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：博士後期課程1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出し、併行して、修士論文の成果を中心とした査読付き論文の執筆を開始する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞社会学

＜研究テーマ＞ケアや支援の相互行為的分析

＜主要研究業績＞2023『知的障害・自閉の人たちと「かかわり」の社会学』（生活書院）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0101 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導 I B

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：博士後期課程1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、修士論文の成果を中心とした査読付き論文を年度末までに完成させて投稿できるよう努力する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>メディア論、マス・コミュニケーション論
<研究テーマ>ニューステキストの言説分析、テレビドラマの物語分析
<主要研究業績>『ギフト、再配達: テレビ・テキスト分析入門』せりか書房,2006年。藤田真文(共編著: 丹羽美之)『メディアが震えた: テレビ・ラジオと東日本大震災』東京大学出版会,2013年。藤田真文編『メディアの卒論: テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房,2016年。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0101 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導 I B

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：博士後期課程1年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程1年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、修士論文の成果を中心とした査読付き論文を年度末までに完成させて投稿できるよう努力する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞社会学

＜研究テーマ＞ケアや支援の相互行為的分析

＜主要研究業績＞2023『知的障害・自閉の人たちと「かかわり」の社会学』（生活書院）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0104 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢA

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学

<研究テーマ>国家とナショナリズムの比較研究，社会学の理論・学説，歴史社会学

<主要研究業績>

『国家の社会学』（青弓社，2014年）

『国民とは誰のことか ドイツ近現代における国籍法の形成と展開』（花伝社，2023年）

「国家の正当性と象徴暴力 ―ブルデューの国家論からみる国家とナショナリズム」北田暁大・筒井淳也編『岩波講座社会学 第1巻 理論と方法』（岩波書店、2023年）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0104 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢA

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会福祉学

<研究テーマ> 対貧困政策

<主要研究業績> 「生活困窮者支援における『市民福祉』の制度化をめぐる一考察」, 『福祉社会学研究』 vol.16, pp.117-134(2019年)

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0104 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢA

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、年度の初めに年次研究計画書を提出するとともに、博士論文の最終構成を作成する。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 理論社会学、文化社会学

<研究テーマ> 記憶と語りの社会学

<主要研究業績> 『不確かさの軌跡』宮下、中脇との共著、ゆみる出版

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0105 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢB

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞社会学

＜研究テーマ＞国家とナショナリズムの比較研究，社会学の理論・学説，歴史社会学

＜主要研究業績＞

『国家の社会学』（青弓社，2014年）

『国民とは誰のことか ドイツ近現代における国籍法の形成と展開』（花伝社，2023年）

「国家の正当性と象徴暴力 ―ブルデューの国家論からみる国家とナショナリズム」北田暁大・筒井淳也編『岩波講座社会学 第1巻 理論と方法』（岩波書店、2023年）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0105 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢB

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会福祉学

<研究テーマ> 対貧困政策

<主要研究業績> 「生活困窮者支援における『市民福祉』の制度化をめぐる一考察」, 『福祉社会学研究』 vol.16, pp.117-134(2019年)

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0105 (社会学 / Sociology 700)

博士論文指導ⅢB

社会学専攻教員

備考（履修条件等）：博士後期課程3年次に必ず履修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆のための指導（博士後期課程3年次対象）

【到達目標】

指導教員の下で博士論文の完成へ向けて研究をおこなう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

指導教員が博士論文執筆のための指導をおこなう。履修者は、博士論文の完成に向けて執筆をおこなう。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。次に示す「授業計画」はあくまでも博士論文指導の例示的な計画であって、当然、各院生の研究の進捗に応じて指導教員ごとに異なった指導をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの設定に関する指導（1）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第2回	研究テーマの設定に関する指導（2）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第3回	研究テーマの設定に関する指導（3）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第4回	研究テーマの設定に関する指導（4）	研究課題の発見、先行研究の検討、理論枠組みの選択
第5回	研究方法の習得に関する指導（1）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第6回	研究方法の習得に関する指導（2）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第7回	研究方法の習得に関する指導（3）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第8回	研究方法の習得に関する指導（4）	調査・研究方法および資料／データ収集法の習得
第9回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（1）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第10回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（2）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第11回	研究構想に即した論文の構成に関する指導（3）	提示する仮説の学術的意義の検討、効果的な論文の構成法
第12回	論文の執筆に関する指導（1）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第13回	論文の執筆に関する指導（2）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証
第14回	論文の執筆に関する指導（3）	文章表現の適切さ、論旨の説得力についての検証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各院生の研究の進捗に応じて指導教員が指示する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指導教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて指導教員が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記の到達目標の達成度について指導教員が基準を設けて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞理論社会学、文化社会学

＜研究テーマ＞記憶と語りの社会学

＜主要研究業績＞『不確かさの軌跡』宮下、中脇との共著、ゆみる出版

【Outline (in English)】

The aim of this course is to guide the students to write a doctoral thesis. Students are expected to conduct research toward the completion of a doctoral thesis under the direction of a supervisor. Assignments and grading criteria are determined by the supervisor.

SOC700E1 - 0200 (社会学 / Sociology 700)

社会学総合演習A

社会学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士後期課程の学生が、査読付き学術雑誌等への投稿を視野に入れてまとめた研究論文を報告し、複数の教員や他の大学院生から助言や刺激を受け、研究論文執筆のスキルを高めることを本科目の目的とする。また、参加する院生がお互いの研究論文を検討することを通じて、研究論文執筆のスキルを相互に学ぶ機会とする。

【到達目標】

査読付きの学術雑誌への論文掲載や学会での研究発表に向けて研究論文を執筆し、その内容を報告し、フィードバックを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

7月下旬頃に、院生が査読付き学術雑誌等への投稿を視野に入れて作成した研究論文に対して、複数の教員が「模擬査読」をおこなう「投稿論文検討会」を開催する。履修学生は所定の期限（6月末予定）までに、当日検討する研究論文を担当教員に提出すること。投稿論文検討会までの論文作成指導は指導教員が、それ以後の論文改善指導は「模擬査読」担当教員がおこなう。課題等へのフィードバックは「投稿論文検討会」内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文作成指導（1）	指導教員による
第2回	論文作成指導（2）	指導教員による
第3回	論文作成指導（3）	指導教員による
第4回	論文作成指導（4）	指導教員による
第5回	論文作成指導（5）	指導教員による
第6回	投稿論文検討会	1時限
第7回	投稿論文検討会	2時限
第8回	投稿論文検討会	3時限
第9回	投稿論文検討会	4時限
第10回	投稿論文検討会	5時限
第11回	論文改善指導（1）	模擬査読担当者による
第12回	論文改善指導（2）	模擬査読担当者による
第13回	論文改善指導（3）	模擬査読担当者による
第14回	論文改善指導（4）	模擬査読担当者による

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

提出された研究論文と当日の報告内容をふまえ、P（合格）／F（不合格）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help doctoral students improve their research and writing skills for peer reviewed papers. Each participant is expected to give advice to other students as well as learn from the teaching staff's advice. Grading (P/F) will be decided based on whether you present a paper or not.

SOC700E1 - 0201 (社会学 / Sociology 700)

社会学総合演習B

社会学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文執筆にむけて、博士後期課程の学生が自分の博士論文の構想を報告し、複数の教員や他の大学院生から助言や刺激を受け、研究の指針を得ることを目的とする。また、参加する院生が相互にそれぞれの問題意識や研究方法から学ぶ機会とする。

【到達目標】

先行研究を踏まえ、自身の問題意識を明確化し、研究内容について理解を深め、研究のさらなる進展またはよりよい研究の成果にむけて検討を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

12月中旬頃に、博士論文の構想を報告する「博論構想報告会」を開催する。履修学生は所定の期限（1月中旬予定）までに、報告タイトルを担当教員に提出すること。博論構想報告会の前の博論構想指導、報告会の後の博論執筆指導は、いずれも指導教員がおこなう。

課題等へのフィードバックは「博論構想報告会」内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博論構想指導（1）	指導教員による
第2回	博論構想指導（2）	指導教員による
第3回	博論構想指導（3）	指導教員による
第4回	博論構想指導（4）	指導教員による
第5回	博論構想指導（5）	指導教員による
第6回	博論構想報告会	1時限
第7回	博論構想報告会	2時限
第8回	博論構想報告会	3時限
第9回	博論構想報告会	4時限
第10回	博論構想報告会	5時限
第11回	博論執筆指導（1）	指導教員による
第12回	博論執筆指導（2）	指導教員による
第13回	博論執筆指導（3）	指導教員による
第14回	博論執筆指導（4）	指導教員による

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

博論構想報告会当日の報告をふまえ、P（合格）／F（不合格）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help doctoral students finish their Ph.D. dissertation. Each participant is expected to report his/her plan for the dissertation and improve it by advice from teaching staff and other students. Grading (P/F) will be decided based on whether you report your plan for the dissertation or not.

SOC500E1 - 0200 (社会学 / Sociology 500)

社会学研究 1

GEORGE HANN

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this class we will explore the world of English rhetoric, the art of effective communication. Understanding how people communicate is empowering to both readers and creators of texts. We will examine the ways in which others communicate and will critically analyze the methods they use so we can judge the effectiveness of their arguments. As you learn what works and what doesn't work in creating an effective argument in English, you will focus on applying those lessons within your own writing so that you may become an effective producer of English texts yourself.

【到達目標】

- Summarizing/paraphrasing others' ideas.
- Reflecting and analyzing ideas.
- Responding to other's ideas.
- Reading critically.
- Understanding the components of an argument.
- Understanding the structure of an argument.
- Reasoning for or against a claim.
- Presenting ideas from external sources.
- Synthesizing multiple sources.
- Formulating and presenting an original argument.
- Supporting your argument with evidence.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The primary focus of this course is on clarity, organization, rhetorical patterns, style, and overall good writing practices in academic English. Students will also be expected to maintain a reading journal based on the readings provided by the instructor (from William Zinsser's "On Writing Well"). Each reading will be read outside of class and discussed together in groups and/or as a whole class. The essay writing in this class will utilize the process approach. Students will produce multiple drafts of each essay with each subsequent draft incorporating suggestions/revisions from classmates and/or the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course Guidance/Introductions	• Syllabus and course explanation • General essay structure • Rd. Jackie Robinson's Free Minds and Hearts at Work • Free Minds and Hearts at Work class discussion • Draft 1
第2回	Summary &Response	• How to write a summary and response • Peer review - What kind of things should we look for in ours and our classmates' writing? • Rd. Zinsser Chs. 1-2 • Draft 2
第3回	Summary &Response continued	• Discuss Zinsser Chs. 1-2 • Comma usage • Summary &Response Final Draft • Rd. Zinsser Chs. 3-4
第4回	Critique Essay	• Discuss Zinsser Chs. 3-4 • Cutting clutter • Rd. Kaplan's Cultural Thought Patterns in Inter-Cultural Education • Find and read an article about contrastive and/or intercultural rhetoric • Introduce your article (summary and response)

第5回	Critique Essay continued	• What is a critique and how to write one • Discuss Kaplan • When to use passive/active voice • Rd. Zinsser Chs. 5-7 • Draft 1
第6回	Critique Essay continued	• Discuss Zinsser Chs. 5-7 • Citing sources (APA format) • Logos, Pathos, Ethos • Draft 2
第7回	Research Paper	• Logical fallacies • Final draft
第8回	Research Paper continued	• Logical fallacies continued • Organization of a research paper • Rd. Zinsser Chs. 8-9
第9回	Research Paper continued	• Synthesizing sources • Discuss Zinsser Chs. 8-9 • Draft 1
第10回	Research Paper continued	• Peer Review • Draft 2
第11回	Research Paper continued	• Peer Review • Final Draft
第12回	Poster Presentation	• Preparing a poster presentation
第13回	Poster Presentation continued	• Work on poster presentations
第14回	Poster Presentation continued	• Poster presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Course readings; essay writing; presentation preparation

【テキスト（教科書）】

William Zinsser On Writing Well, 25th Edition

【参考書】

English-Japanese and Japanese-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

Summary &Response Essay: 20%

Critique Essay: 25%

Research Essay: 25%

Poster Presentation: 20%

Class Discussions: 10%

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

Laptop computer, Webcam, Internet connection.

【その他の重要事項】

授業形態：対面/オンライン

【担当教員の専門分野等】

英語教育学

【研究テーマ】

CALL; Drama in Language Education

【主要研究業績】

Matsumura, Shoichi, and George Hann. 2004. Computer anxiety and students' preferred feedback methods in EFL writing. The Modern Language Journal 88: 403- 15.

【Outline (in English)】

In this class we will explore the world of English rhetoric, the art of effective communication. Understanding how people communicate is empowering to both readers and creators of texts. We will examine the ways in which others communicate and will critically analyze the methods they use so we can judge the effectiveness of their arguments. As you learn what works and what doesn't work in creating an effective argument in English, you will focus on applying those lessons within your own writing so that you may become an effective producer of English texts yourself.

SOC500E1 - 0201 (社会学 / Sociology 500)

社会学研究 2

小杉 亮子

備考（履修条件等）：修士課程「社会学特殊研究5」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学的な観点から社会運動や市民活動、集合行為、ボランティアな活動について研究を実施するにあたり、必要な理論的方法論的知識を学ぶとともに、修士論文に向けてより良い研究を進めるためにはどのようなしたらよいか、参加者で議論していきます。

【到達目標】

- 自身の修士論文のための研究を進めるにあたり、理論的思想的方法論的ヒントを得る。
- 社会運動論および社会運動研究に関する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は以下の3つのパートから構成されます。

(1) 社会運動論および社会運動研究に関する講義

小杉が社会運動論や最近の社会運動研究の動向について講義します。

(2) 社会運動研究の方法論を具体的に学ぶことを目的としたフィールドワーク
社会運動や市民運動の資料を保存する「立教大学共生社会研究センター」を訪問し、実際に資料に触れます。

(3) 受講者による研究発表とディスカッション

受講者に、学位論文のための研究計画に関連した研究発表をおこなってもらい、受講者全員でディスカッションをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的・内容・評価方針を説明するとともに、受講者の自己紹介を兼ねて「研究ビブリオバトル」を実施します。
第2回	社会運動論の見取り図	社会運動論について講義をします。
第3回	社会運動の右翼と左翼	社会運動論について講義をします。
第4回	社会運動の保守と革新	社会運動論について講義をします。
第5回	フィールドワーク1	立教大学共生社会研究センターを訪問し、社会運動アーカイブズについて学ぶとともに、実際に社会運動資料に触れ、社会運動研究の方法論を学びます。
第6回	フィールドワーク2	立教大学共生社会研究センターを訪問し、社会運動アーカイブズについて学ぶとともに、実際に社会運動資料に触れ、社会運動研究の方法論を学びます。
第7回	フィールドワーク3	立教大学共生社会研究センターを訪問し、社会運動アーカイブズについて学ぶとともに、実際に社会運動資料に触れ、社会運動研究の方法論を学びます。
第8回	デモと暴力	社会運動論について講義をします。
第9回	空間の自治	社会運動論について講義をします。
第10回	受講者による研究発表1	受講者は自身の研究に関する発表をおこない、受講者全員でディスカッションします。
第11回	受講者による研究発表2	受講者は自身の研究に関する発表をおこない、受講者全員でディスカッションします。
第12回	受講者による研究発表3	受講者は自身の研究に関する発表をおこない、受講者全員でディスカッションします。
第13回	受講者による研究発表4	受講者は自身の研究に関する発表をおこない、受講者全員でディスカッションします。
第14回	受講者による研究発表5	受講者は自身の研究に関する発表をおこない、受講者全員でディスカッションします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

(1) リアクションペーパー（50%）

集中講義1日目（7月27日）と2日目（7月28日）は、最後に、その日に学んだ内容についての感想と考察を書くリアクションペーパーを提出してもらいます。学んだ内容を適切に理解しているか、また、それについて自分なりの考察を深められているか、という2つの観点から評価します。

(2) 研究発表（25%）

集中講義3日目（7月29日）に、受講者は学位論文に向けた研究発表をおこないます。発表のために適切な準備がされていたかという点と発表内容の2つの観点から評価します。

(3) ディスカッションへの貢献（25%）

3日間をとおして、ディスカッションへの積極的な参加が求められます。発言の頻度および内容にもとづいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- 本年度に新規に担当するため、これまでアンケートを実施してません。

- ただし、授業の進め方や内容に関する受講生からの要望や意見にたいしては、できる限り柔軟に対応したいと考えています。受講生のみなさんは、なにかあれば、遠慮なく伝えてください。

【学生が準備すべき機器他】

- 課題提出のため学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- 授業の準備のため、5～6月に、受講者全員に参加していただいでZoomでのミーティングを実施します。時期が近くなりましたら、日程調整のために連絡しますので、学習支援システムからの連絡には注意をしてください。

- 7月28日（火）は、フィールドワークとして、立教大学共生社会研究センター（豊島区・池袋）を訪問します。受講者は全員、このフィールドワークに参加することが求められます。

- この授業では、受講生の自力による思考を重視するため、生成AIの使用は禁止します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

社会学、社会運動論

<研究テーマ>

近代日本の社会運動史、1960年代の社会運動、学生運動、生活史

<主要研究業績>

小杉亮子, 2018, 『東大闘争の語り——社会運動の予告と戦略』新曜社。

濱西栄司ほか, 2020, 『問いからはじめる社会運動論』新曜社。（共著）

大野光明・小杉亮子・松井隆志, 2025, 『闘う1980年代——社会運動史研究6』新曜社。（共編著）

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire advanced knowledge of theories and methodologies for study of social activism. This course also provides students with opportunities in which they could present their own research and discuss how their research plan could be developed. (Learning Objectives)

- At the end of the course, students are expected to get some theoretical and methodological inspiration, with which they could advance their own research for master's thesis.

- At the end of the course, students are expected to acquire advanced understanding on social movement studies.

SOC500E1 - 0202 (社会学 / Sociology 500)

社会学研究 3

丸山 友美

備考（履修条件等）：修士課程「社会学特殊研究 6」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初期テレビドキュメンタリー史を研究するなかで、講師が実践するメディア研究の方法を、具体的な番組や事例を使って説明します。修士論文のテーマ・対象・方法を模索する履修者が、自分の研究をイメージできるようになることを目指します。

【到達目標】

修士論文のテーマ・対象・方法を模索する履修者が、研究をデザインできるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義の回は、紙に印刷したレジュメを配布し、それをもとに説明します。視聴の回は、ワークシートを配布し、それをもとに上映番組の能動的な視聴をおこないます。
(配布資料は、すべて「日本語」です)
ワークショップの回は、13回目までの授業を踏まえて「ワタシがやってみたいメディア研究」をテーマに授業者が発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	メディア研究の方法①	表現の変遷からメディア史を記述する
第2回	テレビを「再読」する①	『日本の素顔』と『ノンフィクション劇場』（視聴①）
第3回	テレビドキュメンタリーの成立①	録音構成からフィルム構成へ
第4回	テレビドキュメンタリーの成立②	反骨のドキュメンタリストが映した戦後日本
第5回	テレビを「再読」する②	『現代の主役』より2番組（視聴②）
第6回	テレビドキュメンタリーの青春①	被写体を凝視し続ける表現手法への挑戦
第7回	テレビドキュメンタリーの青春②	物語らないテレビの衝撃／日本人の価値観を問う
第8回	テレビを「再読」する③	『遠くへ行きたい』と『お荷物小荷物』（視聴③）
第9回	テレビの壁を突破する①	共犯関係を結ぶ被写体と制作者
第10回	テレビの壁を突破する②	沖縄返還と「脱ドラマ」
第11回	メディア研究の方法②	表現を生み出す〈ヒト〉に注目する／Production Studies
第12回	メディア研究の方法③	産業を支える〈ヒト〉に注目する／Critical Production Studies of Media Infrastructure
第13回	メディア研究の方法④	録画機を使う〈ヒト〉に注目する／Cultural Studie of Media Feminist Activism
第14回	ワークショップ	真剣大学院生しゃべり場：ワタシがやってみたいメディア研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習・復習などで、授業外の学習が週に数時間必要です。事前に指定テキスト（教科書）を読んでください。授業内容をより理解するために、様々なメディアと日々接することを心がけてください。

【テキスト（教科書）】

丸山友美『日本の初期テレビドキュメンタリー史』青弓社、2023年

【参考書】

藤田真文『テレビドラマ研究の教科書ージェンダー・家族・都市』青弓社、2024年
今野勉『テレビマン伊丹十三ーテレビは映画よりも面白い？』東京大学出版会、2023年
丹羽美之『日本のテレビ・ドキュメンタリー』東京大学出版会、2020年
丹羽美之編『NNNドキュメント・クロニクル1970-2019』東京大学出版会、2020年
NHK放送文化研究所編『テレビ・ドキュメンタリーを創った人々』NHK出版、2018年

【成績評価の方法と基準】

ワークシートの作成（3回分）とそれに基づく授業ディスカッションへの参加（75%）、そしてワークショップでの発表内容（25%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2026年度が初回のため記載しません。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学

<研究テーマ>テレビ研究

<主要研究業績>

https://researchmap.jp/tomomi_maruyamaにて確認してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course is designed to help master's students discover their own theme, subjects, and methods.
(Learning Objectives)

This course aims to provide clues students explore their master's research questions, themes, and methodologies to design their own research.
(Learning activities outside of classroom)

Preparing for and reviewing class requires several hours of study outside of class each week. Enjoy discussion and share opinions with classmates.
(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation will be based on the worksheets (for three sessions), participation in class discussions based on those worksheets (75%), and the presentations in workshops (25%).

SOC500E1 - 0203 (社会学 / Sociology 500)

社会調査法 1

三井 さよ

備考（履修条件等）：修士課程「調査研究法」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の研究の実際の場面で社会調査を活用するため、研究の目的および研究に適用する社会理論と有機的に結びついたかたちで調査をデザインし、データを分析する思考法を習得する。まずは社会学の調査研究の古典、近年の優れた研究を講読し、また担当者自身の研究のデータ収集・分析のプロセスを見ていくことを通して、それらの問題関心とそこから導き出された独特の調査設計・データ分析法を学ぶ。さらに受講者各自の問題関心に応じた調査デザイン・データ分析法を構想し、相互討論を通して洗練する。

【到達目標】

- ・優れた研究の講読を通して、それらが研究対象の特性と結びつけてどのような調査・分析を行っているか、その思考法を理解することができる。
- ・それらの理解を活かしつつ、学生が自身の問題関心に応じた調査デザイン・データ分析の方法を構想し、洗練させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンラインあるいはハイブリッドでの演習の形式を採る。授業内での文献に関する受講生の発表、また受講生自身の研究テーマとリサーチデザインについての報告の発表に基づいて授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	総論1：社会学と社会調査	社会学における社会調査の歴史と発展について学ぶ。
第2回	総論2：社会調査の諸類型	社会調査のさまざまな類型について学ぶ。
第3回	総論3：社会調査の倫理と真正性	社会調査における調査倫理、また調査における確からしさについて学ぶ。
第4回	フィールドワークの光と影1	文献から実例を学ぶ。
第5回	フィールドワークの光と影2	文献から実例を学ぶ。
第6回	フィールドワークの光と影3	受講生各自の研究テーマにおけるフィールドワーク調査の活用について討議する。
第7回	個人の歴史と社会の歴史を重ね合わせ1	文献から実例を学ぶ。
第8回	個人の歴史と社会の歴史を重ね合わせ2	受講生各自の研究テーマにおけるライフヒストリー研究の活用について討議する。
第9回	テキストデータの分析1	文献から実例を学ぶ。
第10回	テキストデータの分析2	文献から実例を学ぶ。
第11回	テキストデータの分析	受講生各自の研究テーマにおけるテキストデータや映像資料の分析の活用について討議する。
第12回	社会関係を計量する1	文献から実例を学ぶ。
第13回	社会関係を計量する2	受講生各自の研究テーマにおける量的データの分析とその活用について討議する。
第14回	各自の問題関心に基づく調査デザインの最終発表と相互討論	受講生各自がそれまでの講義内容を活かして、自分自身の研究テーマに即したリサーチデザインを報告し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題文献の講読とそれに関するレジュメを作成すること、また自身の研究テーマに即したリサーチデザインの報告レジュメを作成すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

上記授業計画の「内容」に記載。

【参考書】

各回ごとに授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加30%、報告の内容評価30%、筆記試験40%。よく考えられた報告を行うことと、筆記試験において修士論文に相応しい調査計画を立案できていることを求める。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

専門社会調査士資格のH科目に該当する。
修士課程「調査研究法」と合同で行う。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会学

<研究テーマ>臨床社会学

<主要研究業績>三井さよ2021『ケアと支援と「社会」の発見』生活書院

【Outline (in English)】

In this course, students will learn how to design surveys and analyze data by linking them to sociological research objectives and social theory. They will understand the process of data collection and analysis in sociological research by reviewing classics, recent excellent research, and the research of the instructor. In addition, They will develop their own research design and data analysis methods based on their own interests, and refine them through mutual discussion.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class presentation : 30%, in class contribution: 30%

SOC500E1 - 0204 (社会学 / Sociology 500)

社会調査法 2

胡中 孟徳

備考（履修条件等）：修士課程「統計分析法」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会統計学の基礎を学びつつ、それを実際に社会調査によって得られたデータに適用する方法を学習する。これにより、社会的な発想に導かれた計量分析の実際を知り、それを自ら行うための基本的な技術の修得をめざす。社会現象を実際のデータを用いて分析することを通じ、理論的説明と実証分析の対応関係についての実践的な感覚を深める。

【到達目標】

主に重回帰分析と因子分析の学習を通して、多変量解析の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

多変量解析の基礎に関する講義と統計ソフト SPSS を用いた実習をおこない、それに対するフィードバックを通じて理解を深める。授業では、「SPSS：リモートデスクトップ」を利用する。利用方法は授業でも解説するが、可能な場合は、あらかじめ自分のパソコンに「SPSS：リモートデスクトップ」をインストールしておくことを勧める。詳細は多摩情報センターウェブサイト「ソフトウェア」の「SPSS：リモートデスクトップによる利用」を参照されたい。取り上げる手法は、履修者の理解状況などに応じて調整する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：社会学と多変量解析	社会学と多変量解析
第2回	代表値と散布度	中心がどのあたりにあるのかと散らばりの程度に関する統計量を復習する
第3回	推測統計の基礎	推測統計の基礎について概説する
第4回	線形代数の基礎	線型代数の基礎知識とデータの関連について説明する
第5回	説明変数・目的変数と二変量回帰モデル	二変量回帰モデルの考え方について解説する
第6回	回帰理論の数学モデル	誤差項と回帰係数・切片について線型代数を用い解説する
第7回	重回帰分析の導入	回帰分析の数学モデルの重回帰分析への拡張を行う
第8回	最小二乗推定と多重共線性	回帰モデルの推定方法の1つであるOLSと、重回帰分析における多重共線性の問題について解説する
第9回	偏回帰係数の検定とモデルの評価	偏回帰係数を中心としたモデルの解釈を学ぶ
第10回	重回帰モデルの使用とモデルの改善	モデルの改善・評価について解説する
第11回	因子分析の数学モデル	因子分析の数学的構造について解説する
第12回	探索的因子分析の実際	探索的因子分析の事例を紹介する
第13回	探索的因子分析と確証的因子分析	探索的因子分析との比較により、確証的因子分析の概略を学ぶ
第14回	共分散構造分析およびその他の分析手法	その他の多変量解析法について概説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【参考書】

ボンシュテット&ノーク、1990、『社会統計学』ハーベスト社。

片瀬一男編、2007、『社会統計学』放送大学教育振興会。

その他、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各自が設定したテーマについて、授業で取り上げた分析を使用した授業内報告（40％）とレポート（60％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>教育社会学・生活時間研究

<研究テーマ>生活時間と格差

<主要研究業績>

中村高康・平沢和司・荒牧草平・中澤渉編『教育と社会階層: ESSM 全国調査からみた学歴・学校・格差』東京大学出版会（2018 年、章分担執筆）。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to develop a basic understanding of multivariate analysis in quantitative methods through secondary data analysis. Grading will be decided based on in-class contribution (40%) and reports (60%). The goal of this course is to understand the basics of multivariate analysis, mainly through the study of multiple regression and factor analysis. Your study time will be more than four hours for a class.

SOC500E1 - 0205 (社会学 / Sociology 500)

社会調査法 3

樋口 明彦

備考（履修条件等）：修士課程「質的資料分析法」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、質的データの収集と分析方法を概説することである。インタビュー、参与観察、ライフヒストリー分析といった手法を取り上げ、質的調査の方法論について体系的に講義する。さらに、インタビューデータ分析のワークショップを行い、具体的な分析方法を学ぶ。

【到達目標】

①質的調査の方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義および日本語文献講読。課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	量的調査と質的調査
第2回	質的調査の手法	参与観察法・フィールドワーク・インタビュー・ライフヒストリー分析
第3回	質的データ分析の理論(1)	第1章
第4回	質的データ分析の理論(2)	第2章
第5回	質的データ分析の理論(3)	第3章
第6回	質的データ分析の理論(4)	第4章
第7回	質的データ分析の理論(5)	第5章
第8回	質的データ分析の方法(1)	第6章
第9回	質的データ分析の方法(2)	第7章
第10回	質的データ分析の方法(3)	第8章
第11回	インタビューデータ分析のワークショップ(1)	質問の作成
第12回	インタビューデータ分析のワークショップ(2)	コーディング
第13回	インタビューデータ分析のワークショップ(3)	コード・マトリックス
第14回	インタビューデータ分析のワークショップ(4)	概念モデル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤郁哉, 2008, 『質的データ分析法』新曜社。

＊ただし、開講後の指示があるまで、テキストは購入しないこと。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

①平常点（100％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

ワークショップのため、ノートパソコンの持参が望ましい。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞社会政策

＜研究テーマ＞若者政策

＜主要研究業績＞樋口明彦, 2017, 「若者の社会的リスクに対する社会保障制度の射程」乾彰夫・本田由紀・中村高康編『危機のなかの若者たち』東京大学出版会。

【Outline (in English)】

The purpose of the lecture is to provide an overview of

qualitative data collection and analysis methods. We will systematically lecture on qualitative research methodology, focusing on methods such as interviews and participant observation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your grade in the class will be decided based on class contribution: 100%.

SOC500E1 - 0206 (社会学 / Sociology 500)

社会学原典研究 1

馬場 智一

備考（履修条件等）：修士課程「社会学原典講読」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

"ケイパビリティアプローチに関連する基礎的文献を英語原文で読み、地球規模の問題に関わる社会哲学の理解を深めます。原文の訳読を通じて、英語文献を情報源として使えるようになることを目的とします。

【到達目標】

英語の社会哲学文献を辞書を引いて自分で読み、理解できる
正確な文法理解に基づいた上で、原文を意識できる
授業で学んだケイパビリティアプローチの基礎理論を説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

テキストをあらかじめ配布する。授業ではこのテキストを輪読する。輪読は出席者が順番に一文ずつ音読し、日本語に翻訳する（直訳した上で意訳する）。その後、訳した文をわかりやすく言い換える（パラフレーズする）。その後教員が適宜解説を加える。ある程度読み終えたら、簡単な内容要約の小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	資料の配布、ケイパビリティアプローチについて
第2回	文献訳読（1）と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半
第3回	文献訳読（2）と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半
第4回	文献訳読（3）と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半
第5回	文献訳読（4）と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半
第6回	文献訳読（5）と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半
第7回	文献訳読（6）と小テスト（1）	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半
第8回	文献訳読（7）と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半
第9回	文献訳読（8）と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半
第10回	文献訳読（9）と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半
第11回	文献訳読（10）と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半
第12回	文献訳読（11）と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半

第13回	文献訳読（12）と議論	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半
第14回	小テスト（2）と振り返り	Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution 前半

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストは指定された箇所をあらかじめ辞書を引いて読み、文法構造を理解した上で、直訳で翻訳できるようにしてきてください。授業で翻訳した箇所については、あらためてわからない用語を専門の事典で調べるなどして理解に努めてください。小テストに備えて、論文の趣旨をまとめておいてください。本科目の標準の授業時間外学習は準備と復習時間を合わせ4時間です。

【テキスト（教科書）】

Martha Nussbaum, "Nature, Function, and Capability: Aristotle on Political Distribution," in Oxford Studies in Ancient Philosophy: Supplementary Volume, (Oxford University Press, 1988). 輪読のテキストはその都度配布します。

【参考書】

各回の内容に応じて授業中に適宜参考書を紹介します。特にアリストテレス『ニコマコス倫理学』『政治学』マルクス『経済学・哲学草稿』、(岩波文庫) の特定の箇所を適宜参照します。

【成績評価の方法と基準】

文献の訳読（70%）、小テスト（30%）

【学生の意見等からの気づき】

英語で書かれた哲学論文を読む機会はあまりない受講者がほとんどで難しく感じると予想されるので、ゆっくり進みます。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞典を持っていない方は必ず準備して授業を履修してください。

【その他の重要事項】

ケイパビリティアプローチの哲学的基礎に関心があり、英語原文で基礎文献を読みたい方に履修を推奨します。秋学期に「外書購読（メディア社会学）3B / 社会学研究科・外国書講読2（英語）」で同じ論文を続けて読みます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 哲学、倫理学、思想史、哲学プラクティス

<研究テーマ> 20世紀独仏哲学、尊厳概念の歴史

<主要研究業績> 『倫理の他者』（勁草書房, 2012）、『尊厳と生存』（共著、法政大学出版局, 2022）『『存在の彼方へ』を解説する』（編著、法政大学出版局, 2025）

【Outline (in English)】

【Course Outline】In this course, students read foundational texts related to the Capability Approach in their original English and deepen their understanding of social philosophy as it addresses global issues. Through close reading and translation of the original texts, the course aims to develop students' ability to use English-language philosophical literature as reliable academic sources. Emphasis is placed on careful grammatical analysis and accurate interpretation in order to grasp both the arguments and the conceptual framework of the Capability Approach.

【Learning Objectives】By the end of this course, students will be able to: Read and understand English-language texts in social philosophy using dictionaries and reference materials. Translate philosophical texts accurately based on a correct understanding of grammatical structure, producing appropriate interpretive translations rather than word-for-word renderings alone. Explain the basic theoretical framework of the Capability Approach introduced in the course.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to prepare for each class by reading the assigned sections of the text in advance, using dictionaries to analyze vocabulary and grammatical structure, and preparing a literal translation of the passages. After class, students should review the translated sections by researching unfamiliar terms in specialized dictionaries or encyclopedias and consolidating their understanding of the text. In preparation for mid and final term exams, students should summarize the main arguments of the assigned readings. The standard amount of learning activities outside the classroom for this course is four hours per week, including preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】 Translation and close reading of assigned texts: 70% mid and final term exam: 30%

